

# 島根大学ミュージアム年報

Annual Report of Shimane University Museum

平成23・24年度

2013.3

島根大学ミュージアム

Shimane University Museum

## 序 文

平成25年4月、島根大学ミュージアムは、創設8年目を迎えることとなります。ミュージアムでは、これまで展示・普及啓発事業、学生教育、構内の埋蔵文化財行政など、多種多様な業務の遂行に邁進してまいりました。

普及啓発活動としては、月1回の連続市民講座、子供向け教室、フィールド体験ツアー、キャンパスツアー、公開授業、常設展示、企画展示などを行っています。平成21年10月、サテライトミュージアムとして市内にオープンした島根大学旧奥谷宿舎（旧制松江高等学校外国人宿舎）では、学内外団体との共催による展示会などを開催し、多くの来館者にご見学いただいているところです。

学生教育では、各学部の学芸員資格取得に関わる授業について、ミュージアムが一元的に開講しています。平成24年度からは、資格取得に必要な授業科目が大幅に増加し、これまで以上に学生教育に対する責任が重くなっています。ミュージアム所蔵標本類なども活かした、実践的な博物館学教育を推進していきたいと考えています。

情報発信に関しては、平成23年度に『島根大学標本資料類データベース』を構築し、インターネット上で公開しました。本データベースは、総合大学である島根大学が、明治時代以来の教育研究によって収集してきた様々な分野の標本資料類を収載したものです。こうしたデータベースを活用することによって、これまでの教育研究で蓄積されてきた学術情報が、これからの様々な教育研究に再活用されていくことに役立てば幸いです。なお、本データベース構築の取組みは、文部科学省の国立大学法人に対する平成23年度「業務実績評価」のなかで、注目事項としてプラス評価されました。

以上のように、この7年間、ミュージアムでは様々な業務に取り組んでまいりましたが、大きな課題も残されています。

現在、島根大学ミュージアム本館の展示室は、10畳程度のスペースしかありません。また、収蔵庫も満杯でこれ以上の資料受け入れが困難な状態となっています。このような事情から、将来的には、何らかの形で新しいミュージアム施設を整備することを永年にわたって要望してきたところです。誰もが気軽に訪れ、さまざまな展示資料を見学することができる新ミュージアムの実現を目指して、今後一層、諸活動に取り組んでいく所存です。

学内外の皆様からのご支援ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

平成25年3月

島根大学ミュージアム館長 林 正 久



# 目 次

I	規則・組織	
1	規則	1
(1)	鳥根大学ミュージアム規則	1
(2)	鳥根大学ミュージアム管理運営委員会規則	2
(3)	普及啓発専門委員会要項	4
(4)	鳥根大学旧奥谷宿舎専門委員会要項	4
(5)	埋蔵文化財専門委員会要項	5
(6)	鳥根大学構内における埋蔵文化財の取扱いに係る判断基準	5
2	組織	8
(1)	組織構成と構成員	8
(2)	管理運営委員会	8
(3)	専門委員会	9
II	活動報告	
1	主な活動日誌抄	10
2	標本資料類などの収集、整理・保管、調査研究	12
(1)	標本資料類などの収集	12
(2)	標本資料類などの整理・保管	12
3	博物館学および標本資料類などに係る学生教育	13
(1)	学芸員資格取得に必要な科目	13
(2)	共通教養科目（総合科目）「鳥大ミュージアム学」	15
4	標本資料類などに係る普及啓発及び地域貢献	16
(1)	入館者数	16
(2)	常設展示	16
(3)	企画展示など	16
(4)	展示案内・キャンパスツアーなど	20
(5)	公開講座・フィールド体験ツアーなど	20
(6)	刊行物	25
(7)	インターネットを活用した情報発信	25
5	本学構内の埋蔵文化財の取扱い	25
(1)	地域医療支援センター新営に伴う鳥根大学出雲キャンパス試掘調査	25
(2)	附属図書館本館の耐震補強外壁設置に伴う鳥根大学構内遺跡第19次調査	27
(3)	工事立会	30
(4)	鳥根大学構内遺跡第15・16・17・18・19次発掘調査の整理・研究	30
6	鳥根大学旧奥谷宿舎（サテライトミュージアム）の活用	30
(1)	鳥根大学旧奥谷宿舎（サテライトミュージアム）の活用状況	30
(2)	鳥根大学旧奥谷宿舎見学者アンケートの結果	32
7	マスコミ報道状況	33
8	ミュージアム教員の活動記録	34



# I 規則・組織

## 1 規則

### (1) 島根大学ミュージアム規則

(平成18年島大規則第9号)  
(平成18年3月8日制定)  
〔平成19年2月28日一部改正〕  
〔平成21年6月25日一部改正〕  
〔平成24年2月28日一部改正〕

#### (趣旨)

第1条 この規則は、島根大学ミュージアム（以下「ミュージアム」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

#### (目的)

第2条 ミュージアムは、学内共同教育研究施設として、島根大学（以下「本学」という。）における標本資料類などを大学所有の有形知的財産として位置づけ、それらを集集、整理・保管及び調査研究をしたうえで、展示公開などによる教育、普及啓発、情報発信の促進及び地域貢献などを行うことを目的とする。

#### (業務)

第3条 ミュージアムは、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 標本資料類などの収集、整理・保管及び調査研究に関すること。
- 二 博物館学及び標本資料類などに係る学生教育に関すること。
- 三 標本資料類などに係る普及啓発及び地域貢献に関すること。
- 四 本学構内の埋蔵文化財の取扱いに関すること。
- 五 その他ミュージアムの目的を達成するために必要な業務

#### (組織)

第4条 ミュージアムに、次の各号に掲げる職員を置く。

- 一 館長
- 二 副館長
- 三 専任教員
- 四 その他必要な職員

2 ミュージアムに兼任研究員及び学外協力研究員を置くことができる。

#### (館長)

第5条 館長の選考は、本学の専任教授のうちから、第10条に規定する島根大学ミュージアム管理運営委員会の発議に基づき、教育研究評議会の議を経て、学長が行う。

2 館長の任期は、2年とし、再任を妨げない。

3 館長は、ミュージアムの業務を掌理する。

#### (副館長)

第6条 副館長の選考は、本学の専任教員のうちから、第10条に規定する島根大学ミュージアム管理運営委員会の推薦に基づき、学長が行う。

2 副館長の任期は、2年とし、再任を妨げない。

3 副館長は、館長を補佐し、ミュージアムの業務を整理する。

#### (専任教員)

第7条 専任教員は、第3条に掲げられた事項に関し専門的知識又は相当な経験を有する者とする。

2 専任教員の選考は、教育研究評議会の議を経て学長が行う。

(兼任研究員)

第8条 兼任研究員は、ミュージアムの業務に関して専門的知識を有する者で、全学的立場からミュージアムの業務を推進する者とする。

2 兼任研究員は、本学専任教員のうちから、館長の推薦に基づき、学長が任命する。

3 館長は、前項の推薦に当たっては、当該教員が所属する部局等の長の同意を得るとともに、第10条に規定する島根大学ミュージアム管理運営委員会の議を経なければならない。

4 兼任研究員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(学外協力研究員)

第9条 学外協力研究員は、ミュージアムの業務に関して専門的知識を有する学外の者で、ミュージアムの業務推進に協力する者とする。

2 学外協力研究員は、第10条に規定する島根大学ミュージアム管理運営委員会の議を経て、館長が委嘱する。

3 学外協力研究員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(管理運営委員会)

第10条 ミュージアムに関する基本的事項を審議するため、島根大学ミュージアム管理運営委員会(以下「管理運営委員会」という。)を置く。

2 管理運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第11条 ミュージアムの事務は、財務部施設企画課の協力を得て、学術国際部研究協力課において処理する。

(雑則)

第12条 この規則に定めるもののほか、ミュージアムに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。

2 島根大学埋蔵文化財調査研究センター規則(平成16年島大規則第162号)は、廃止する。

附 則

この規則は、平成19年10月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成21年7月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

## (2) 島根大学ミュージアム管理運営委員会規則

(平成18年島大規則第10号)

(平成18年3月8日制定)

[平成19年2月28日一部改正]

[平成21年6月25日一部改正]

[平成24年3月19日一部改正]

(趣旨)

第1条 この規則は、島根大学ミュージアム規則(平成18年島大規則第9号)第10条第2項の規定に基づき、島根大学ミュージアム管理運営委員会(以下「管理運営委員会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 管理運営委員会は、島根大学ミュージアム(以下「ミュージアム」という。)に関し、次の各号に掲げる事項を審議する。

一 管理運営の基本方針及び事業計画に関すること。

二 本学構内の埋蔵文化財の取扱いに関すること。

- 三 館長及び副館長の推薦に関する事。
- 四 教員の人事（資格審査を含む。）に関する事。
- 五 予算及び決算に関する事。
- 六 その他ミュージアムの管理運営に関する事。

（組織）

第3条 管理運営委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- 一 館長
- 二 副館長
- 三 ミュージアムの専任教員
- 四 各学部（総合理工学部を除く。）教員代表 各1名
- 四の二 総合理工学研究科教員代表 1名
- 五 附属図書館長
- 六 総合情報処理センター長
- 七 生涯学習教育研究センター長

2 前項第4号及び第4号の2の委員は、学部長及び研究科長の申出に基づき、学長が任命する。

3 第1項第4号及び第4号の2の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 管理運営委員会に委員長を置き、委員長は館長をもって充てる。

（会議）

第4条 管理運営委員会は、委員長が招集し、議長は委員長をもって充てる。

2 委員長に事故があるときは、副館長がその職務を代理する。

3 管理運営委員会は、委員の3分の2以上が出席しなければ会議を開くことができない。

4 管理運営委員会は、出席者の過半数をもって議決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

5 管理運営委員会が必要と認めるときは、管理運営委員会に委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

（専門委員会）

第5条 管理運営委員会に専門的事項を審議するため、必要に応じて、専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会に関し必要な事項は、管理運営委員会が別に定める。

（事務）

第6条 管理運営委員会の事務は、財務部施設企画課の協力を得て、学術国際部研究協力課において処理する。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成19年10月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成21年7月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成24年4月1日から施行する。



### (3) 普及啓発専門委員会要項

平成21年6月11日  
島根大学ミュージアム管理運営委員会決定

(趣旨)

第1 この要項は、島根大学ミュージアム管理運営委員会規則（平成18年島大規則第10号）第5条第2項の規定に基づき、島根大学ミュージアム普及啓発専門委員会（以下「専門委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2 専門委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。  
一 シンポジウム、研究会、公開講座等の企画及び実施  
二 ニュースレター、広報等の編集・刊行  
三 その他普及啓発に関する事項

(組織)

第3 専門委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- 一 館長
  - 二 副館長
  - 三 ミュージアムの専任教員
  - 四 ミュージアム兼任研究員・学外協力研究員のうちから若干名
- 2 第1項第4号の委員は、館長の推薦に基づき、学長が任命する。  
3 第1項第4号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。  
4 専門委員会に委員長を置き、委員長は館長をもって充てる。

(会議)

第4 専門委員会は、委員長が招集し、議長は委員長をもって充てる。  
2 委員長に事故があるときは、副館長がその職務を代理する。

附 則

- 1 この要項は、平成21年6月11日から実施する。
- 2 島根大学ミュージアム専門委員会内規（平成18年4月28日制定）は、廃止する。

### (4) 島根大学旧奥谷宿舎活用専門委員会要項

平成21年6月11日  
島根大学ミュージアム管理運営委員会決定

(趣旨)

第1 この要項は、島根大学ミュージアム管理運営委員会規則（平成18年島大規則第10号）第5条第2項の規定に基づき、島根大学旧奥谷宿舎活用専門委員会（以下「専門委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2 専門委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。  
一 島根大学旧奥谷宿舎の運営に係る基本計画に関すること。  
二 島根大学旧奥谷宿舎を利用した活動等の企画及び実施  
三 その他島根大学旧奥谷宿舎に関する事項

(組織)

第3 専門委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- 一 館長
- 二 副館長
- 三 ミュージアムの専任教員
- 四 ミュージアム兼任研究員・学外協力研究員のうちから若干名

- 2 第1項第4号の委員は、館長の推薦に基づき、学長が任命する。
- 3 第1項第4号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。
- 4 専門委員会に委員長を置き、委員長は館長をもって充てる。

(会議)

第4 専門委員会は、委員長が招集し、議長は委員長をもって充てる。

- 2 委員長に事故があるときは、副館長がその職務を代理する。

附 則

この要項は、平成21年6月11日から実施する。

## (5) 埋蔵文化財専門委員会要項

平成21年6月11日

島根大学ミュージアム管理運営委員会決定

(趣旨)

第1 この要項は、島根大学ミュージアム管理運営委員会規則（平成18年島大規則第10号）第5条第2項の規定に基づき、島根大学ミュージアム埋蔵文化財専門委員会（以下「専門委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2 専門委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 埋蔵文化財の発掘調査・試掘調査・確認調査・工事立会に係る基本計画に関すること。
- 二 埋蔵文化財の修復保存に係る基本計画に関すること。
- 三 その他埋蔵文化財に関する事項

(組織)

第3 専門委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- 一 館長
- 二 副館長
- 三 ミュージアムの専任教員
- 四 ミュージアム兼任研究員・学外協力研究員のうちから若干名

- 2 第1項第4号の委員は、館長の推薦に基づき、学長が任命する。
- 3 第1項第4号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。
- 4 委員会に委員長を置き、委員長は館長をもって充てる。

(会議)

第4 専門委員会は、委員長が招集し、議長は委員長をもって充てる。

- 2 委員長に事故があるときは、副館長がその職務を代理する。

附 則

- 1 この要項は、平成21年6月11日から実施する。
- 2 島根大学ミュージアム専門委員会内規（平成18年4月28日制定）は、廃止する。

## (6) 島根大学構内における埋蔵文化財の取扱いに係る判断基準

### 1 目的

本基準は、文化財保護法（昭和25年法律第214号）の趣旨を尊重し、島根大学敷地内の開発事業に伴う埋蔵文化財の取扱いに係る基本的な判断基準を定め、埋蔵文化財を適切に保護し、将来への保存を図ることを目的とする。

### 2 適用対象

本基準は、島根大学が所有する全ての敷地内における開発に伴う埋蔵文化財取扱いに適用する。

### 3 定義

(1)「試掘調査」とは、埋蔵文化財の有無が地表面の観察等からでは判断できない場合に、部分的に発掘する調査をいう。

(2)「確認調査」とは、埋蔵文化財包蔵地の範囲・性格・内容等の概要までを把握するため、部分的に発掘する調査をいう。

(3)「発掘調査」とは、開発事業等に際し、影響を受ける埋蔵文化財を事前に発掘し、詳細な記録を作成する措置を執ることをいう。

(4)「工事立会」とは、工事の施工に際し、専門職員等が立ち合い、遺構・遺物包含層等が確認される等のことがあった場合には、必要に応じて適切な措置を執ることをいう。

(5)「慎重工事」とは、埋蔵文化財包蔵地において工事を行うものであることを十分認識したうえで慎重に施工することをいう。

### 4 埋蔵文化財として取扱う時代範囲

(1) 近世までに属する遺跡は、原則として全て埋蔵文化財として取扱うこととする。

(2) 近現代の遺跡については、鳥根県や各市町村ならびに鳥根大学の歴史解明のために重要なものを埋蔵文化財として取り扱うこととし、その決定は、鳥根大学ミュージアム埋蔵文化財専門委員会において行なうこととする。

### 5 「発掘調査」を要する範囲の決定

埋蔵文化財の「発掘調査」を要する範囲は、それまでに行われた諸調査の成果に加え、必要に応じて「試掘調査」・「確認調査」等を実施したうえで、鳥根大学ミュージアム埋蔵文化財専門委員会において決定する。

### 6 埋蔵文化財取扱いの判断基準

開発事業に際しての埋蔵文化財の取扱いについては、次の原則と別表に基づいて、「発掘調査」その他の措置を講ずるものとし、その決定は、鳥根大学ミュージアム埋蔵文化財専門委員会において行なうこととする。

(1) 次の場合においては、「発掘調査」を実施するものとする。

ア 工事により埋蔵文化財が掘削され、破壊される場合。

イ 掘削が埋蔵文化財に影響を及ぼさない場合であっても、工事によって地下の埋蔵文化財に影響を及ぼすおそれのある場合。

ウ 一時的な工作物の設置や盛土・埋立の場合であっても、その重さによって地下の埋蔵文化財に影響を及ぼすおそれのある場合。

エ 恒久的な工作物の設置や盛土・埋立により、埋蔵文化財と人との関係が絶たれ、当該埋蔵文化財が損壊したのに等しい状態となる場合。

(2) 次の場合においては、「工事立会」を行うものとする。

ア 一時的な工作物の設置や盛土・埋立で、現地で状況を確認する必要がある場合。

イ 恒久的な工作物の設置や盛土・埋立の場合であっても、将来的に発掘調査が可能な条件が満たされると判断される場合。

(3) 既に行われた土木工事等により埋蔵文化財が損壊を受けた範囲内の工事で、埋蔵文化財に新たな影響が生じないと判断される場合等は、「慎重工事」の措置を講ずる。なお、施工中に遺構・遺物を発見した場合は、速やかにミュージアムに連絡をとり、所定の手続きをとる。

### 7 鳥根県教育委員会・関係市町村教育委員会との連携について

埋蔵文化財の取扱いに関しては、鳥根県教育委員会をはじめ関係市町村教育委員会と十分な連携をはかり、慎重に判断するものとする。

### 8 開発計画から埋蔵文化財取扱いまでの流れ

開発計画から埋蔵文化財取扱いまでの流れは、別図に基づいて適切に進めるものとする。

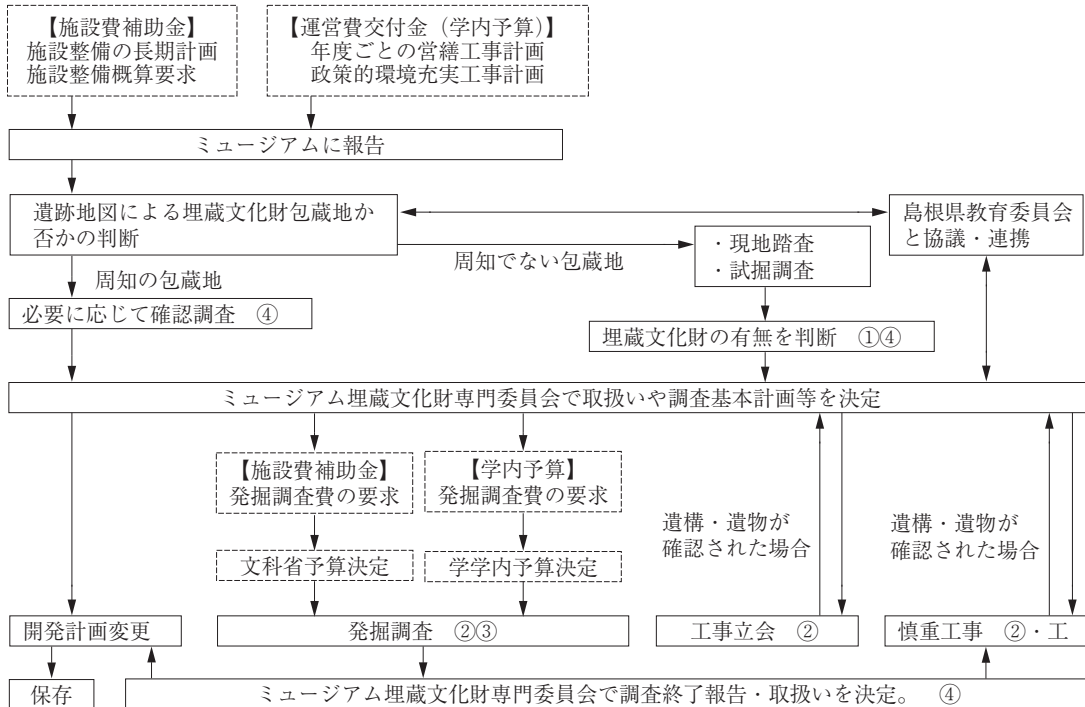
### 附 則

本基準は、平成18年4月1日から適用する。

別表

工事内容・種類	取扱い	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工事により埋蔵文化財が掘削され、破壊される場合。</li> <li>・ 掘削が埋蔵文化財に直接及ばない場合であっても、工事によって地下の埋蔵文化財に影響を及ぼすおそれがある場合。</li> <li>・ 通常20年以上の耐久度を有しない一時的な工作物の設置や盛土・埋立の場合であっても、その重さによって地下の埋蔵文化財に影響を及ぼすおそれがある場合。</li> <li>・ 通常20年以上の耐久度を有した恒久的な工作物の設置や盛土・埋立により、埋蔵文化財と人との関係が絶たれ、当該埋蔵文化財が損壊したのに等しい状態になる場合。</li> </ul>	<p>開発事業等に際し、事前に「発掘調査」を実施し、詳細な記録を作成する。</p>	発掘調査
<p>道路</p> <p>厚さ2m以上の恒久的な盛土・埋立</p> <p>校舎・共同溝等の建築物・埋納物</p>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一時的な工作物の設置や盛土・埋立で、現地で状況を確認する必要がある場合。</li> <li>・ 恒久的な工作物の設置や盛土・埋立の場合であっても、将来的に発掘調査が可能な条件が満たされると判断される場合。</li> </ul>	<p>工事の施工中に調査員が立ち会い、遺構・遺物包含層等が確認される等があった場合には、その記録をとり、工事を変更する等、適切な措置を講ずる。</p> <p>ただし、次の場合においては、発掘調査を実施するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 将来において発掘調査が可能な条件が満たされない場合。</li> <li>・ 遺構面あるいは遺物包含層上面から厚さ30cm程度の保護層が確保できない場合。</li> <li>・ 掘削等により埋蔵文化財に影響が及ぶ部分とそうでない部分、あるいは埋蔵文化財に影響が及ぶ部分と盛土・埋立の部分が著しく交錯する場合。</li> <li>・ 現地表面に立体的に遺存する埋蔵文化財が、盛土等の施工に伴う地形の変化により、外観上所在が把握できなくなる場合</li> </ul>	工事立会
<p>道路</p> <p>歩道</p> <p>植樹帯・緑地帯</p> <p>野球場・競技場</p> <p>駐車場</p> <p>公園・緑地</p> <p>厚さ2m未満の恒久的な盛土・埋立</p>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既に行われた土木工事等により埋蔵文化財が損壊を受けた範囲内の工事で、埋蔵文化財に新たな影響が生じないと判断される場合。</li> </ul>	<p>埋蔵文化財包蔵地において工事を行うものであることを十分認識したうえで、慎重に施工し、遺構・遺物を発見した場合は、速やかにミュージアムに連絡をとる。</p>	慎重工事

別図 開発と埋蔵文化財取扱いについてのフローチャート



(注)

- ①遺構・遺物を確認した場合、「遺跡発見届」を鳥根県教育委員会（市町村教育委員会経由）に提出。
- ②埋蔵文化財発掘届（文化財保護法）第93条第1項を調査（工事）開始60日前までに鳥根県教育委員会（市町村教育委員会経由）に提出。
- ③埋蔵文化財発掘届（文化財保護法92条第1項）を調査開始30日前までに鳥根県教育委員会（市町村教育委員会経由）に提出。
- ④遺物を発見した場合、「埋蔵文化財発見届」を所轄警察署に提出。

## 2 組織

### (1) 組織構成と構成員

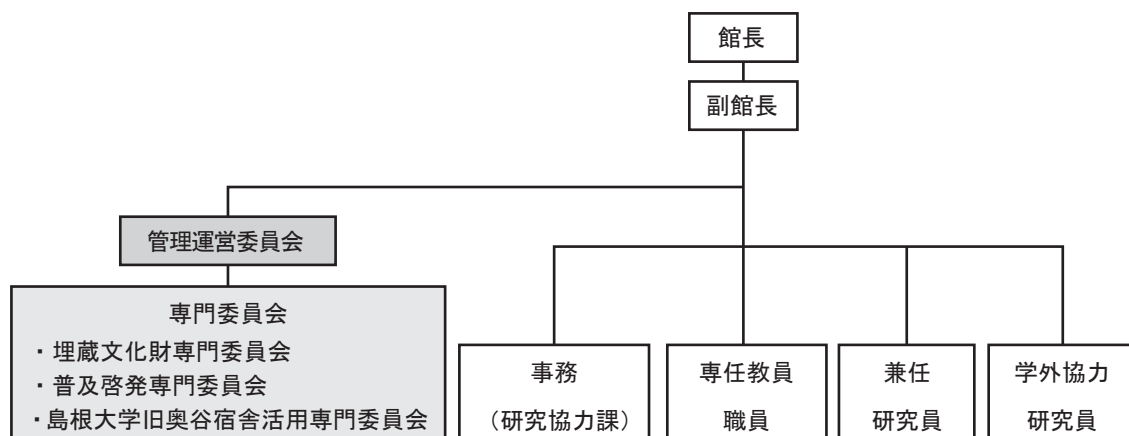


図1 ミュージアムの組織図

館長	教育学部	教授	林 正久
副館長	ミュージアム	准教授	會下 和宏
兼任研究員	法文学部	教授	大橋 泰夫
	法文学部	准教授	岩本 崇
	法文学部	准教授	及川 穰 (平成24年6月1日から)
	法文学部	准教授	小林 准士
	法文学部	准教授	西田 兼
	法文学部	准教授	飯野 公央
	教育学部	教授	大谷 修司
	教育学部	准教授	作野 広和
	医学部	教授	小林 裕太
	総合理工学研究科	教授	三瓶 良和
	総合理工学研究科	准教授	酒井 哲弥
	生物資源科学部	教授	片桐 成夫 (平成24年3月31日まで)
	生物資源科学部	准教授	秋吉 英雄
	生物資源科学部	准教授	山岸 主門
	生涯学習教育研究センター	教授	仲野 寛
	国際交流センター	教授	安藤 安則
職員	研究協力課	技術補佐員	田中 浩子

### (2) 管理運営委員会

#### 平成23年度

委員長	館長	教授	林 正久
委員	副館長・専任	准教授	會下 和宏
	法文学部	教授	大橋 泰夫
	教育学部	准教授	長谷川博史
	医学部	教授	奥西 秀樹
	総合理工学部	教授	横田修一郎
	生物資源科学部	教授	黒田 正明
	附属図書館長	教授	田籠 博
	総合情報処理センター長	教授	野田 哲夫

	生涯学習教育研究センター長	教授	田坂 郁夫
<b>平成24年度</b>			
委員長	館長	教授	林 正久
委員	副館長・専任	准教授	會下 和宏
	法文学部	教授	大橋 泰夫
	教育学部	准教授	作野 広和
	医学部	教授	奥西 秀樹
	総合理工学研究科	教授	廣光 一郎
	生物資源科学部	教授	宮永 龍一
	附属図書館長	教授	田籠 博
	総合情報処理センター長	教授	野田 哲夫
	生涯学習教育研究センター長	教授	田坂 郁夫 (平成24年9月30日まで)
	生涯学習教育研究センター長	教授	多々納道子 (平成24年10月1日から)

### (3) 専門委員会

#### 埋蔵文化財専門委員会

委員長	館長	教授	林 正久
委員	副館長・専任	准教授	會下 和宏
	法文学部	教授	大橋 泰夫
	法文学部	准教授	岩本 崇
	法文学部	准教授	及川 穰 (平成24年6月1日から)
	医学部	教授	小林 裕太
	総合理工学研究科	教授	三瓶 良和
	総合理工学研究科	准教授	酒井 哲弥
	生物資源科学部	教授	片桐 成夫 (平成24年3月31日まで)

#### 普及啓発専門委員会

委員長	館長	教授	林 正久
委員	副館長・専任	准教授	會下 和宏
	法文学部	准教授	小林 准士
	法文学部	准教授	西田 兼
	教育学部	教授	大谷 修司
	医学部	教授	小林 裕太
	総合理工学研究科	教授	三瓶 良和
	総合理工学研究科	准教授	酒井 哲弥
	生物資源科学部	准教授	秋吉 英雄

#### 島根大学旧奥谷宿舎活用専門委員会

委員長	館長	教授	林 正久
委員	副館長・専任	准教授	會下 和宏
	法文学部	准教授	飯野 公央
	教育学部	准教授	作野 広和
	医学部	教授	小林 裕太
	生物資源科学部	准教授	山岸 主門
	生涯学習教育研究センター	教授	仲野 寛
	国際交流センター	教授	安藤 安則

## Ⅱ 活動報告

### 1 主な活動日誌抄

#### 【平成23年度】

#### 平成23年4月

4月23日(土) 第33回市民講座「子ども達の“農力”を引き出す場づくりー身近な雑草と触れ合いながらー」

#### 平成23年5月

5月9日(月) ミュージアム管理運営委員会

5月14日(土) 第34回市民講座「隠岐の島のスギ人工林調査から間伐を考える」

5月19日(木) 団体見学：ベトナムの訪日団学生21名

5月21日(土) 第7回島根まるごとミュージアム体験ツアー「島根半島の信仰遺跡巡礼」

#### 平成23年6月

6月11日(土) 第35回市民講座「髪の毛の疑問解決ー毛髪科学からわかってきたことー」

6月22日(水) 団体見学：川津小学校3年生

6月23日(木) キャンパスツアー：長野県の高中生

6月30日(木) 団体見学：鳥取中央育英高等学校 PTA

#### 平成23年7月

7月15日(金) ミュージアム管理運営委員会

7月16日(土) 第36回市民講座「中海の二枚貝と環境～中海産「おいしい赤貝」の復活をめざして～」

7月30日(土) 夏休み子供体験教室「磯遊びで海の生き物を学ぼう！」

#### 平成23年8月

8月10日(水) 団体見学：法文学部オープンキャンパス参加学生

8月19日(金) 団体見学：中国寧夏大学訪日団

8月20日(土) 第37回市民講座「ハナバチたちの衣食住～身近な隣人の素顔に迫る～」

8月27日(土)～9月19日(月) ミュージアム企画展「島根師範学校の遺産～島根大学に伝え遺されてきた近代の標本たち～」

#### 平成23年9月

9月3日(土) 第38回市民講座「魚の子供はどんな所で育つのか？」

9月12日(月) 団体見学：邇摩高校生徒15名

9月22日(木) 団体見学：鹿島中学校生徒15名

9月26日(月) キャンパスツアー：米子市福市公民館40名

#### 平成23年10月

10月8日(土) 第5回ホームカミングデー連携企画キャンパスツアー

10月8日(土)～9日(日) 学園祭参加企画「クイズに答えてミュージアムグッズをもらおう！」

10月13日(木) 団体見学：隠岐高校生徒20名

10月14日(金) ミュージアム管理運営委員会

10月14日(金) 団体見学：福祉関係団体20名

10月15日(土) 「日本女性会議2011」で「島根大学初の女性教授・溝上泰子」パネル展示。

10月15日(土) 第39回市民講座「東アジアからみた出雲の弥生墳墓」

10月18日(火) 団体見学：浜田高校生徒50名

10月20日(水) 団体見学：松徳学院中学校2年生30名、島根大学教育学部附属小学校児童、大東高校生徒22名

10月27日(木) 団体見学：横田高校生徒20名

#### 平成23年11月

11月4日(金) 教養課程授業「島大ミュージアム学」で250名がミュージアム見学。

- 11月11日(金) 団体見学：大社高校40名  
11月11日(金) キャンパスツアー：中国河北師範学校  
11月11日(金)～12月4日(日) ミュージアム企画展「島根大学初の女性教授『溝上泰子』展」  
11月12日(土) 第40回市民講座「古墳の出現・終焉と『出雲』」  
11月29日(火) キャンパスツアー：カンボジア訪日団22名

#### 平成23年12月

- 12月5日(月)～28日(水) ミュージアム企画展「旧制松江高校出身『永井隆博士』没後60年企画展～己の如く人を愛せよ～」  
12月10日(土) 第41回市民講座「古代出雲の鉄・鉄器生産」  
12月14日(水) 団体見学：出雲農林高校生徒22名

#### 平成24年1月

- 1月12日(木) 「島根大学標本資料類データベース」公開  
1月23日(月) ミュージアム管理運営委員会  
1月23日(月) 団体見学：法文学部学生17名  
1月28日(土) 第42回市民講座「考古学からみた国郡制の成立と出雲国の形成」

#### 平成24年2月

- 2月18日(土) 第43回市民講座「出雲風土記抄を読むー岸崎佐久次の古代出雲ー」

#### 平成24年3月

- 3月8日(木) 団体見学：香港大学学生30名  
3月17日(土) 第44回市民講座「弥生時代のはじまりと渡来人ー『出雲』形成前史ー」  
3月29日(木) 団体見学：中国・山東大学教員

#### 【平成24年度】

#### 平成24年4月

- 4月18日(水) 団体見学：日南中学校生徒34名  
4月23日(月) 埋蔵文化財専門委員会

#### 平成24年5月

- 5月9日(水) ミュージアム管理運営委員会  
5月12日(土) 第45回市民講座「遺跡から見た石見の歴史概説」  
5月14日(月) 団体見学：くにびき学園卒業生20名  
5月16日(水)～25日(金) 島根大学出雲キャンパス試掘調査  
5月19日(土) 第8回島根まるごとミュージアム体験ツアー「松江・雲南の古代巨石文化探訪」

#### 平成24年6月

- 6月2日(土)～24日(日) ニュース展示「発見！世界最古の“鮎”化石～松江にいた1000万年前の若鮎～」  
6月8日(金) 団体見学：隠岐高校、釜山大学  
6月9日(土) 第46回市民講座「石見銀山の銀はどこからきたの？」  
6月20日(水) 団体見学：開星高校生徒30名  
6月26日(火) 団体見学：川津小学校児童30名

#### 平成24年7月

- 7月3日(火) 団体見学：大社高校「むらさきの会」20名  
7月7日(土) 第47回市民講座「16世紀の列島社会と石見銀山」  
7月18日(水) 埋蔵文化財専門委員会  
7月23日(月)～8月7日(火) 島根大学構内遺跡第19次調査実施

#### 平成24年8月

- 8月3日(金)～9月2日(日) ミュージアム企画展「洋館で見る夏の昆虫コレクション2012」  
8月4日(土) 夏休み子供ミュージアム教室「昆虫標本を自分で作ってみよう！」  
8月10日(金) 団体見学：法文学部オープンキャンパス参加学生約180名  
8月18日(土) 第48回市民講座「真宗信仰の広がりから見た近世石見地域の特質」



8月23日(木) 団体見学：安来市内小学校児童40名

#### 平成24年9月

9月1日(土) 第49回市民講座「中近世における石見地域の陶磁器流通」

9月20日(木) キャンパスツアー：鹿島中学校生徒15名

#### 平成24年10月

10月6日(土) 第6回ホームカミングデー連携企画キャンパスツアー

10月6日(土)～7日(日) 学園祭参加企画「クイズに答えてミュージアムグッズをもらおう！」

10月6日(土) 第50回市民講座「隠岐産黒耀石の開発・利用からみた先史時代の山陰地域」

10月11日(木) 団体見学：隠岐高校生徒

10月16日(火) 団体見学：矢上高校、江津高校、大東高校生徒

10月17日(水) 団体見学：カンボジア訪日団

10月18日(木) 団体見学：松徳学院中学校生徒

#### 平成24年11月

11月2日(金)～12月2日(日) 山陰ケーブルビジョン・マーブル番組「松江おちらとあるき」で島根大学旧奥谷宿舎紹介。

11月6日(火) 団体見学：飯南高校、島根中央高校、平田高校、岡山玉島高校生徒

11月15日(木) 団体見学：横田高校、大社高校生徒

11月20日(火) BS日テレ番組「知られざる百年遺産 わが町の建築物語」で島根大学旧奥谷宿舎紹介。

#### 平成24年12月

12月1日(土) 第51回市民講座「加茂岩倉銅鐸にみる弥生時代の鑄造技術」

12月11日(火) 出雲農林高校の生徒がミュージアム見学。

12月15日(土) 第52回市民講座「弥生時代の墳丘墓と日本海交流」

#### 平成25年1月

1月12日(土) 第53回市民講座「古代の日本海交流－渤海と山陰・出雲」

1月25日(金) 『シマダイミューズ』Vol.4発行。

#### 平成25年2月

2月9日(土) 第54回市民講座「古代のクラからみた国郡制の形成」

2月20日(水) 「島根大学標本資料類データベース」の閲覧数が10万件を超える。

#### 平成25年3月

3月23日(土) 第55回市民講座「『出雲』における古墳の終焉」

## 2 標本資料類などの収集、整理・保管、調査研究

### (1) 標本資料類などの収集

平成23年度、下記の学内所蔵資料をミュージアムに移管した。

- ・旧制松江高校時代の動物標本・貝殻標本・人骨標本（生物資源科学部・生物科学科から）
- ・島根師範学校時代の動物標本・人骨標本（教育学部附属中学校から）
- ・昆虫標本（生物資源科学部・北村研究室所蔵品から）

### (2) 標本資料類などの整理・保管

島根大学構内遺跡出土遺物や上記標本類などのミュージアム所蔵資料は、ミュージアム本館の建物内収蔵室において適切な環境のもとに整理・保管している。

また、「島根大学標本資料類データベース」に登録するため、ミュージアム所蔵資料などのデータ整理、デジタル写真撮影を進めた。

### 3 博物館学および標本資料類などに係る学生教育

#### (1) 学芸員資格取得に必要な科目

従来、学芸員資格取得に関する科目の開講や博物館実習の段取りは、各学部が個別的に実施していたが、平成21年度から教職科目以外で卒業単位とは無関係の科目については、ミュージアムにおいて一元的に開講している。

平成24年度、ミュージアムが開講した科目は表1の通りである（平成23年度は、平成22年度授業と同一であるため省略。『年報・平成22年度』を参照のこと）。

博物館法施行規則の一部改正によって、学芸員資格取得に必要な単位数が大幅に増加したことを受けて、平成24年度から新カリキュラムによる授業を開始している。平成23年度以前の入学生は旧カリキュラム、平成24年度以降の入学生（編入生含む）、社会人受講生（科目等履修生）は新カリキュラムを履修することとし、平成23年度入学生が卒業する平成26年度までは、新旧両カリキュラムの授業を並行して開講する予定である。

表1 平成24年度・学芸員資格取得に必要な科目  
【旧カリキュラム（平成23年度以前の入学生）】

博物館法施行規則に定める科目及び単位				
科目	法定単位	法文学部学生	生物資源科学部学生	総合理工学部学生
生涯学習概論	1	生涯教育論（後期・集中）(仲野 寛) 2単位		
博物館概論	2	博物館概論（前期） （會下和宏）	博物館概論（前期集中） （*高安克己）	
博物館資料論	2	博物館資料論（前期） （會下和宏）	博物館学各論Ⅰ（前期） （會下和宏）	
博物館経営論	1	博物館経営論（前期集中） （會下和宏）	博物館学各論Ⅱ （前期集中）(會下和宏)	
博物館情報論	1	博物館情報論（前期集中） （會下和宏）		
視聴覚教育メディア論	1	教育情報科学概論（後期・教職科目）(高山草二) 2単位	教育情報科学概論（後期集中・教職科目） （森本直人） 2単位	
教育学概論	1	教育原論Ⅱ（前期・教職科目）(*洪山昌雄) 2単位	教育原論Ⅱ（後期集中・教職科目） （*洪山昌雄） 2単位	
博物館実習	3	博物館実習（通年集中） （會下和宏） 1単位	博物館実習（後期集中） （石田秀樹・高島育雄・宮永龍一） 1単位	博物館実習（後期集中） （會下和宏） 1単位
		博物館実習に係る事前および事後指導（通年集中） （會下和宏） 1単位	博物館実習に係る事前および事後指導（後期集中）(石田秀樹) 1単位	博物館実習に係る事前および事後指導（後期集中）(會下和宏) 1単位
		考古学実習Ⅲ・博物館学実習（前期・後期） （會下和宏） 1単位 その他学部の専門実習を振替	学部の専門実習を振替	学部の専門実習を振替

- ・\*印は非常勤講師
- ・博物館実習の実施は、学外の各博物館に依頼。

【新カリキュラム（平成24年度入学生・編入生・科目等履修生）】

博物館法施行規則に定める科目及び単位					
科目	法定単位	法文学部学生		生物資源科学部学生	総合理工学部学生
生涯学習概論	2	生涯教育論（後期集中）(仲野 寛)			
博物館概論	2	選 択	博物館概論A（前期）(會下和宏)		
	博物館概論B（前期集中）(*高安克己)				
博物館資料論	2	博物館資料論（前期）(會下和宏)			
博物館資料保存論	2	博物館資料保存論（後期）(*沢田正明・會下和宏)			
博物館展示論	2	選 択	博物館展示論A（後期）(會下和宏)		
	博物館展示論B（後期集中）(會下和宏)				
博物館経営論	2	博物館経営論（前期集中）(*永井 泰)			
博物館情報・メディア論	2	選 択	博物館情報・メディア論A（後期）(會下和宏) 1単位		
			博物館情報・メディア論B（後期集中）(會下和宏) 1単位		
			教育の方法と技術（後期） (高山草二) 2単位	教育の方法と技術（後期集中） (森本直人) 2単位	
博物館教育論	2		教育原論Ⅱ（前期） (*洪山昌雄) 2単位	教育原論Ⅱ（後期集中） (*洪山昌雄) 2単位	
		選 択	博物館教育論A（後期）(會下和宏) 1単位		
			博物館教育論B（後期集中）(會下和宏) 1単位		
博物館実習	3		・博物館実習Ⅰ（学内実習） (前期)(會下和宏) 1単位 ・その他、専門科目の実習で 振替	博物館実習Ⅰ（学内実習） →専門科目の実習で振替	博物館実習Ⅰ（学内実習） →専門科目の実習で振替
			博物館実習Ⅱ（学内実習）(前期)(會下和宏) 1単位	博物館実習Ⅱ（学内実習）(前期)(石田秀樹・宮永龍一・林 蘇娟・高島育雄) 1単位	博物館実習Ⅱ（学内実習）(前期)(*永井 泰・會下和宏) 1単位
			博物館実習Ⅲ（館園実習）(前期集中)(會下和宏) 1単位	博物館実習Ⅲ（館園実習）(後期集中)(石田秀樹・宮永龍一) 1単位	博物館実習Ⅲ（館園実習）(後期集中)(會下和宏) 1単位

- ・\*印は非常勤講師
- ・博物館実習Ⅲの実施は、学外の各博物館に依頼。
- ・平成24年度、博物館展示論A、博物館情報・メディア論A、博物館教育論A、博物館実習Ⅱ・Ⅲの受講者なし。

学芸員資格取得に必要な科目の受講者数は、表2の通り博物館概論で3学部合計81～97名を数える。課程の最終段階で受講する博物館実習（館外実習）では、3学部合計60～74名を数え、文系・理系学生とも学芸員資格取得に対して多くの需要があることが確認できる。また、例年、社会人による学芸員資格取得が数名みられ、学外からの資格取得希望が一定程度あることも明記しておきたい。

以上のように学芸員資格は、教員免許と並んで、文系・理系学生とも取得ニーズが高い。大学

表2 学芸員関係科目の受講者数

		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
博物館概論	法文学部	51 (4)	36	32 (1)	32
	生物資源科学部	34	49	32	29
	総合理工学部	43	47	17 (1)	36
	合計	128	132	81	97
博物館実習	法文学部	52 (2)	34 (4)	33 (2)	27
	生物資源科学部	32	14	22	24
	総合理工学部	9	10	19 (1)	9
	合計	93	58	74	60

- ・人数は未修者なども含む。
- ・ ( ) 内は社会人受講生(科目等履修生)の人数。

ミュージアム施設などを活用したり、大学ミュージアムの普及啓発活動と実習をリンクさせた形での教育プログラムを試行したりするなどして、より良質で実践的な授業を展開し、即戦力となり得る学芸員養成に努めていきたい。

## (2) 共通教養科目(総合科目)「島大ミュージアム学」

後期に共通教養科目(総合科目)の「島大ミュージアム学」を公開授業で実施した。概要は以下の通りである。

**授業科目名** 「島大ミュージアム学～島根大学と島根県の自然・歴史・ひと・文化～」

**授業の目的** 島根大学で学ぶ学生は、県内外の出身地を問わず、島根県の自然・歴史・文化や本学の学校史、顕著な業績をあげた教官・卒業生などについての知識が希薄であるように見受けられる。そこで本授業では、「ミュージアム」「フィールド」「モノ」をキーワードにして、島根県の自然・歴史・文化や島根大学の学校史・著名人(自校教育)などの基礎的事項について、学際的に学ぶものとする。あわせて、公開授業として地域市民にも聴講してもらう。

**達成目標** 島根県・島根大学について、広い基礎知識を得てもらうようにする。本授業を通して、学生や地域市民のなかに、島根県や本学に対する誇り・愛着が醸成されることを期待する。

**科目** 共通教養科目・選択

**対象** 1年次、市民

**単位数** 2単位

**曜日・時間** 金曜日・2コマ目(10:15～11:45)

**担当教員**

會下和宏(島根大学ミュージアム准教授)、角田徳幸(島根県立古代出雲歴史博物館、平成24年度)、小泉凡(島根県立大学短期大学部教授)、杵村喜則(島根大学元助教授)、松尾寿(島根大学名誉教授)

**評価** 受講登録者数は、学生325名、学外社会人受講生5名である(平成24年度)。平成23・24年度も引き続き、第4回にミュージアム展示室において前身校の時代から収集されてきた標本類の見学を行った。第6回には、旧制松江高校ドイツ人教師宿舎として建てられた島根大学旧奥谷宿舎(サテライトミュージアム、松江市奥谷町)やその周辺を散策し、歴史的な町の風景の価値、これらの保護と活用などについて考えさせることをねらいにした授業を実施した。

本授業は、開講を始めてから7年になる。来年度以降も、担当講師を徐々に入れ替えるなどして、授業内容の更新・改善をはかっていきたい。

## 4 標本資料類などに係る普及啓発及び地域貢献

島根大学憲章に明記された、「地域に根ざし、地域社会から世界に発信する個性輝く大学」という本学の理念を具体的に実現させるために、ミュージアムミッションに沿って、以下のような、様々な展示、教育普及プログラムを開発・企画・実施した。以下、種類ごとに詳述していきたい。

### (1) 入館者数

#### ①松江キャンパス（ミュージアム本館展示室、山陰地域資料展示室ほか）

学内の展示施設のうち、ミュージアム本館（ミュージアム管轄）と山陰地域資料展示室（汽水域研究センター管轄）の入館者数は表3の通りである。

ミュージアム本館は、平日（月～金）午前9時～午後4時30分開館で、時間内は見学者を随時受け入れる体制になっている。一方、山陰地域資料展示室は通常閉鎖されており、見学希望者のみに案内するため、団体見学者が多数を占める結果となっている。

10～11月の入館者数が突出して多い要因は、高大連携事業に伴う高校生団体の大学訪問、特別授業「島大ミュージアム学」での見学、学園祭などによる。

#### ②サテライトミュージアム島根大学旧奥谷宿舎（松江市奥谷町140）

松江市奥谷町にあるサテライトミュージアム島根大学旧奥谷宿舎は、平成21年10月に修復工事を終えてオープンし、原則、土日祝日のみ午前10時～午後5時に開館している。入館者数は表3の通り。

平成23～24年度は、学内外の団体・個人による作品展などを共同開催する試みが軌道にのり、年間を通じて定期的に催し物を開催することができた（「Ⅱ-6 島根大学旧奥谷宿舎（サテライトミュージアム）の活用」参照）。今後ともこうした様々な団体・個人との共催によって継続的にイベントを開き、リピーター確保に努めたいと考える。

### (2) 常設展示

島根大学ミュージアムが管理している下記の展示室では、以下のような常設展示を行っている。

#### ①島根大学ミュージアム本館（開館日：平日9：00～16：30）

##### ■常設展示1「遺跡が語る島根大学の歴史」

島根大学松江キャンパスから出土した縄文時代～近代までの考古資料・写真パネルなどから、キャンパスの歴史を展示。

##### ■常設展示2「動物・骨・化石」

島根大学前身校の旧制松江高校、島根師範学校時代に教材として使用されていた動物標本、骨格標本や島根大学の各研究室が教育研究のなかで収集してきた化石、南極の岩石などを展示。

#### ②島根大学旧奥谷宿舎（サテライトミュージアム）（開館日：土日祝日10：00～17：00）

##### ■常設展示「写真が語る島根大学の歴史と旧奥谷宿舎」

島根大学旧奥谷宿舎（サテライトミュージアム）の1階常設展示室①②において、島根大学とその前身校（旧制松江高校、島根師範学校、島根県立農科大学、島根医科大学など）および島根大学旧奥谷宿舎（旧制松江高等学校外国人宿舎）の写真、関連資料などを展示。

### (3) 企画展示など

#### ①「島根師範学校の遺産—島根大学に伝え遺されてきた近代の標本たち—」

主催 島根大学ミュージアム

表3 入館者数一覧

	ミュージアム本館 (平日開館)	山陰地域資料展示室 (団体客・希望者のみ)	サテライト旧奥谷宿舎 (土日祝日開館)	計
平成18年度計	878	589	—	1467
平成19年度計	820	2205	—	3025
平成20年度計	620	808	—	1428
平成21年度計	742	556	1905(10~3月)	3203
平成22年度計	1018	856	2105	3979
23.4	61	13	126	200
23.5	27	22	155	204
23.6	79	73	54	206
23.7	30	19	61	110
23.8	146	202	108	456
23.9	92	58	162	312
23.10	277	273	61	611
23.11	290	312	366	968
23.12	27	22	160	209
24.1	43	15	48	106
24.2	18	2	62	82
24.3	13	33	67	113
平成23年度計	1103	1044	1430	3577
24.4	95	60	126	281
24.5	31	21	106	158
24.6	93	76	188	357
24.7	30	20	133	183
24.8	147	165	411	723
24.9	27	20	121	168
24.10	453	490	89	1032
24.11	12	155	392	559
24.12	26	13	73	112
25.1	35	8	55	98
25.2	24	11	119	154
25.3	29	3	263	295
平成24年度計	1002	1042	2076	4120

**期間** 平成23年8月27日(土)～9月19日(月祝)の土日祝日 10:00～17:00

**会場** サテライトミュージアム島根大学旧奥谷宿舎(松江市奥谷町140) 1階多目的室

**目的・内容** 島根大学教育学部や島根大学教育学部附属中学校には、師範学校で教材として使われていた標本が、永年にわたって保管されてきた。標本のなかには、現在では捕獲不可能な特別天然記念物も含まれている。これらは、学術的に貴重であるばかりでなく、近代学校教育や島根大学の歴史のうえでも重要である。

本企画展示では、近代建築・島根大学旧奥谷宿舎を会場にして、近代にさかのぼる、こうした貴重な標本を展示する。

**【主な展示資料】**

・ニホンカモシカ(特別天然記念物)、アホウドリ(特別天然記念物)、ライチョウ(特別天然記念物)、アナグマ、アオウミガメ、オガサワラオオコウモリ、ワラビー、人骨、液浸標本など

**評価** 近代建築の空間のなかで、戦前にさかのぼる古い標本を展示することによって、島根大学の歴史をビジュアルな形で示し、理解してもらうことができた。

### ②「島根大学初の女性教授『溝上泰子』展」

**主催** 島根大学ミュージアム

**期間** 平成23年11月11日(金)～12月4日(日) 10:00～17:00

**会場** サテライトミュージアム島根大学旧奥谷宿舎(松江市奥谷町140) 1階多目的室

**目的・内容** 溝上泰子氏は、昭和26年、島根大学初の女性教授となり、山陰の農山村婦人との交流を深め、女性の生活向上の問題に取り組んだ教育者である。著書に、『日本の底辺―山陰農山村婦人の生活』『受難島の人々―日本の縮図・沖縄』『生活人間学』などがある。

本企画展示では、溝上氏に関する写真、直筆原稿、絵画などを解説パネルとともに展示し、氏の業績を顕彰する。

**評価** 溝上氏の薫陶を受けたOBの方々などが来館し、当時の懐かしい思い出を語りながら見学される場面がみられた。あまり知られていなかった溝上氏の業績について再評価し、顕彰することができた。

### ③「旧制松江高校出身『永井隆博士』没後60年企画展～己の如く人を愛せよ～」

**主催** 島根大学ミュージアム

**協力** 雲南市永井隆記念館

**期間** 平成23年12月5日(月)～12月28日(水) 10:00～17:00

**会場** サテライトミュージアム島根大学旧奥谷宿舎(松江市奥谷町140) 1階多目的室

**目的・内容** 『長崎の鐘』『この子を残して』の著者として有名な永井隆博士は、松江市苧町で生まれ、島根大学の前身校である旧制松江高等学校を卒業した。松江高校時代には、島根大学旧奥谷宿舎(旧制松江高校外国人宿舎)に暮らしたドイツ人教師・フリッツ・カルシュ博士からドイツ語を習い、思想的にも影響をうけたといわれている。昭和20年8月9日、長崎で被爆後、病床での執筆活動を通じて、世界の人々に感動を与えるとともに、平和の尊さを訴え続けた。

2011(平成23)年は、1951(昭和26)年に永井博士が亡くなってから、60年になる。本企画展示では、永井博士ともゆかりのあるカルシュ博士が暮らした島根大学旧奥谷宿舎を会場にして、改めて永井博士の足跡をふりかえり、平和や家族の大切さについて考える。

**【主な展示資料】**

- ・永井隆博士の寄贈著書(島根大学附属図書館所蔵)
- ・永井隆博士に関する写真(雲南市永井隆記念館・島根大学所蔵)
- ・永井隆博士の直筆色紙、イラスト(雲南市永井隆記念館所蔵)
- ・旧制松江高校アルバム(雲南市永井隆記念館所蔵)
- ・永井隆博士が松江高校恩師に宛てた直筆はがき(雲南市永井隆記念館所蔵)

**評価** 永井隆博士没後60年の年に、ゆかりのあるカルシュ博士が暮らした島根大学旧奥谷宿舎を会場に企画展を開催することができ、大変意義深いものとなった。また、新発見の永井隆直筆は

がきは、博士が既に旧制松江高校時代からキリスト教に興味をもっていたことが書かれており、キリスト教が盛んな長崎へ大学進学した理由を推測させる重要資料である。企画展では、従来の資料に加えて、こうした新しい成果も盛り込むことができた。

#### ④ニュース展示「発見！世界最古の“アユ”化石～松江にいた1000万年前の若鮎～」

**主催** 島根大学ミュージアム・島根大学総合理工学研究科地球資源環境学領域

**期間** 平成24年6月2日(土)～6月24日(日) 10:00～17:00

**会場** サテライトミュージアム島根大学旧奥谷宿舎(松江市奥谷町140) 1階多目的室

**目的・内容** 40年前、松江市馬潟の約1000万年前に堆積した「松江層」から発掘された魚の化石が、鶴見大学歯学部の小寺春人講師と国立科学博物館の友田淑郎元主任研究員の調査によって、最古のアユ化石だったことが分かった。これまでアユは、第四紀の始まり(約258万年前)とともに出現したと考えられてきた。しかし、今回の発見によって、その出現が約1000万年前まで遡ることとなった。6月は、鮎釣りが解禁になる季節である。太古のアユ化石を見学してもらい、1000万年前の水辺を泳ぐ若鮎の姿に思いをはせてもらうことをねらいとした。

##### 【主な展示資料】

・約1000万年前のアユ化石(島根大学総合理工学研究科地球資源環境学領域 所蔵)

**評価** 開催時期が、鮎釣り解禁の6月だったという時宜も得て、釣り雑誌やニュースで紹介されるなど、注目を集めることができた。所蔵資料の調査研究によって得られた新たな成果をタイムリーに情報発信することができた。

#### ⑤「洋館で見る夏の昆虫コレクション2012」

**主催** 島根大学ミュージアム

**期間** 平成24年8月3日(金)～9月2日(日) 10:00～17:00

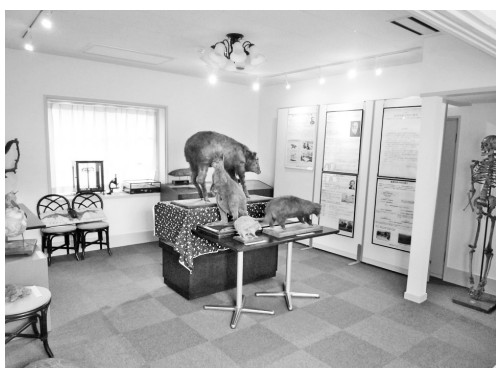
**会場** サテライトミュージアム島根大学旧奥谷宿舎(松江市奥谷町140) 1階多目的室

**目的・内容** 島根大学生物資源科学部が、永年教育研究のなかで収集してきた学術昆虫標本を展示する。色鮮やかで可憐な昆虫たちを、自然界に存在するアートとしても鑑賞してもらう。

##### 【主な展示資料】

・昆虫標本約600点

**評価** 小中学校の夏休み期間中に開催した結果、親子での来館者が多数を占め、入館者数を伸ばすことができた。特に小学生にとって、昆虫に対する興味関心が大きいことが強く実感できた。



企画展示「島根師範学校の遺産―島根大学に  
伝え遺されてきた近代の標本たち―」

(23. 8. 27～9. 19)

島根師範学校で教材として使用されていた戦  
前の動物標本などを公開。



企画展示「旧制松江高校出身『永井隆博士』  
没後60年企画展～己の如く人を愛せよ～」

(23. 12. 5～12. 28)

会場は、永井隆博士とゆかりのあるカルシユ  
博士が暮らした島根大学旧奥谷宿舎。



#### (4) 展示案内・キャンパスツアーなど

##### ①展示案内

**内容** ミュージアム本館や山陰地域資料展示室に来館した見学者に分かりやすく展示解説した。

**評価** 主な実施状況は「Ⅱ－1 主な活動の日誌抄」に記してある。平成23年度以降、高大連携事業に伴う高校生団体の大学訪問や外国からの訪日団など、団体見学の際の展示解説が増加傾向にある。

##### ②キャンパスツアー

**目的・内容** 松江キャンパス内の各展示施設・研究室などをめぐるキャンパス・ウォーキングツアー。小中高校生・受験生・保護者・島根大学OB・市民一般に、島根大学構内やキャンパスライフの様子を理解してもらうことを目的としている。

キャンパスの敷居を低くして、地域から親しまれる大学作りを進めるための一環であるとともに、受験生には、志望校について具体的に知ってもらい、入学後の大学生活をイメージしてもらうこともねらいとしている。

予約をうけて、下記の①～⑩基本コースを中心に、学内の展示施設・校舎内などを解説しながら案内している。

- ①旧制松江高等学校～島根大学正門の門柱（国登録文化財）
- ②旧制松江高等学校石碑（本部棟東側）
- ③総合理工学部3号館1F研究紹介コーナー・3号館高層階からキャンパスや市街地を展望
- ④ミュージアム本館展示室
- ⑤古代出雲文化資料調査室
- ⑥みのりの小道（ミニ学術植物園）
- ⑦山陰地域資料展示室
- ⑧菅田ヶ丘古墳（移築復元）
- ⑨附属図書館、同窓会連合会展示コーナー
- ⑩大学ホール

**評価** 主な実施状況は「Ⅱ－1 主な活動の日誌抄」に記してある。米子市福市公民館、中国河北師範学校訪日団、カンボジア訪日団、鹿島中学校といった各種団体の参加があった。また、例年、ホームカミングデーの一企画としてもキャンパスツアーを実施しており、「久しぶりに母校を巡ることができて懐かしかった」という感想をいただいた。

##### ③学園祭特別企画「島大ミュージアム・クイズラリー：クイズに答えてミュージアムグッズをもらおう！」

**日時** 平成23年10月8日(土)～9日(日) 午前9時～午後4時

平成24年10月6日(土)～7日(日) 午前9時～午後4時

**場所** 島根大学ミュージアム本館展示室・山陰地域資料展示室

**内容** 学内の展示室をめぐって、展示内容に関係するクイズに答えてもらい、全問正解で島根大学オリジナルグッズを進呈。

**評価** 各年度とも、2日間で約150～200名の親子・児童などがクイズに取り組み、展示室を熱心に見学してもらうことができた。

#### (5) 公開講座・フィールド体験ツアーなど

##### ①ミュージアム市民講座

**目的** ミュージアム市民講座は、主に島根大学の様々な専門分野の教職員などが講師を務め、自身の教育研究内容について、分かりやすくリレー講義するものである。生涯学習教育の一環として、本学の教育研究成果を市民一般や高校生などに広く理解してもらうことを目的としている。

平成23年度は計12回、平成24年度は計11回開催した。なお平成24年度からは、島根大学生涯学習教育研究センターが運営する島根大学公開講座として実施している。

■平成23年度第1ステージ「大人のための自然科学講座～身の回りの自然と生き物」(まつえ市民大学連携講座)

主催 島根大学ミュージアム

共催 島根大学生涯学習教育研究センター

趣旨 自然科学系の研究者に、農林業、毛髪、生物など、身近にある様々な自然、生き物、人体について解説してもらう。講座を通して、身の回りの自然や自身の体を末永く維持し、未来に伝えていくことを考えてもらう。

対象 市民一般・大学生・高校生など誰でも受講可。

場所 松江スティックビル市民活動センター（松江市白潟本町43）、島根大学松江キャンパス

- ・第33回「子ども達の“農力”を引き出す場づくりー身近な雑草と触れ合いながらー」(フィールドワーク)

講師：山岸主門（島根大学生物資源科学部准教授・島根大学ミュージアム兼任研究員）

日時：平成23年4月23日(土)

- ・第34回「隠岐の島のスギ人工林調査から間伐を考える」

講師：高橋絵里奈（島根大学生物資源科学部助教）

日時：平成23年5月14日(土)

- ・第35回「髪の毛の疑問解決ー毛髪科学からわかってきたことー」

講師：松崎 貴（島根大学生物資源科学部准教授）

日時：平成23年6月11日(土)

- ・第36回「中海の二枚貝と環境ー中海産「おいしい赤貝」の復活をめざしてー」

講師：山口啓子（島根大学生物資源科学部准教授）

日時：平成23年7月16日(土)

- ・第37回「ハナバチたちの衣食住ー身近な隣人の素顔に迫るー」

講師：宮永龍一（島根大学生物資源科学部准教授）

日時：平成23年8月20日(土)

- ・第38回「魚の子供はどんな所で育つのか？」

講師：堀之内正博（島根大学汽水域研究センター准教授）

日時：平成23年9月3日(土)

■平成23年度第2ステージ「続・考古学・歴史学が語る先史・古代の『出雲』」(まつえ市民大学連携講座)

主催 島根大学ミュージアム・島根大学萌芽研究プロジェクト「『出雲国』成立過程における地域圏の形成と展開に関する総合的研究」

共催 島根大学生涯学習教育研究センター・島根大学法文学部山陰研究センター

趣旨 島根大学萌芽研究プロジェクト「『出雲国』成立過程における地域圏の形成と展開に関する総合的研究」のメンバーを講師とする「先史・古代出雲」をテーマにした連続講座。平成22年度に開講したシリーズの続編。

対象 市民一般・大学生・高校生など誰でも受講可。

場所 松江スティックビル市民活動センター（松江市白潟本町43） 501・502研修室

- ・第39回「東アジアからみた出雲の弥生墳墓」

講師：會下和宏（島根大学ミュージアム准教授・副館長）

日時：平成23年10月15日(土)

- ・第40回「古墳の出現・終焉と『出雲』」

講師：岩本 崇（島根大学法文学部准教授・島根大学ミュージアム兼任研究員）

日時：平成23年11月12日(土)

- ・第41回「古代出雲の鉄・鉄器生産」

講師：角田徳幸（島根県古代文化センター専門研究員）

日時：平成23年12月10日（土）

・第42回「考古学からみた国郡制の成立と出雲国の形成」

講師：大橋泰夫（島根大学法文学部教授・島根大学ミュージアム兼任研究員）

日時：平成24年1月28日（土）

・第43回「出雲風土記抄を読むー岸崎佐久次の古代出雲ー」

講師：大日方克己（島根大学法文学部教授）

日時：平成24年2月18日（土）

・第44回「弥生時代のはじまりと渡来人ー『出雲』形成前史ー」

講師：山田康弘（国立歴史民俗博物館研究部准教授）

日時：平成24年3月17日（土）

■島根大学公開講座・平成24年度第1ステージ「石見学Ⅰ～世界遺産・石見銀山と中近世の石見」(まつえ市民大学連携講座)

主催 島根大学ミュージアム

共催 島根大学生涯学習教育研究センター

趣旨 島根県西部「石見」をテーマにして、学際的に話題提供する連続講座。島根県が誇る世界遺産・石見銀山や中近世の石見地域についてをメインテーマに、各分野の専門講師に解説してもらう。

対象 市民一般・大学生・高校生など誰でも受講可。

場所 松江スティックビル市民活動センター（松江市白潟本町43） 201・202研修室

・第45回「遺跡からみた石見の歴史概説」

講師：會下和宏（島根大学ミュージアム准教授・副館長）

日時：平成24年5月12日（土）

・第46回「石見銀山の銀はどこからきたの？」

講師：中村唯史（島根県立三瓶自然館学芸員）

日時：平成24年6月9日（土）

・第47回「16世紀の列島社会と石見銀山」

講師：長谷川博史（島根大学教育学部教授）

日時：平成24年7月7日（土）

・第48回「真宗信仰の広がりから見た近世石見地域の特質」

講師：小林准士（島根大学法文学部准教授・島根大学ミュージアム兼任研究員）

日時：平成24年8月18日（土）

・第49回「中近世における石見地域の陶磁器流通」

講師：西尾克己（元島根県古代文化センター長）

日時：平成24年9月1日（土）

■島根大学公開講座・平成24年度第2ステージ「続々・考古学・歴史学からみた先史・古代の出雲」(まつえ市民大学連携講座)

主催 島根大学ミュージアム・島根大学法文学部山陰研究センター「『出雲国』成立過程における地域圏の形成と展開にかんする総合的研究」プロジェクトチーム

共催 島根大学生涯学習教育研究センター

趣旨 島根大学法文学部山陰研究センター「『出雲国』成立過程における地域圏の形成と展開にかんする総合的研究」プロジェクトチームのメンバーを講師とする「先史・古代出雲」をテーマにした連続講座。平成22・23年度に開講したシリーズの続編。

対象 市民一般・大学生・高校生など誰でも受講可。

場所 松江スティックビル市民活動センター（松江市白潟本町43） 201・202研修室

・第50回「隠岐産黒耀石の開発・利用からみた先史時代の山陰地域」

講師：及川 穰（島根大学法文学部准教授・島根大学ミュージアム兼任研究員）

日時：平成24年10月6日（土）

- ・第51回「加茂岩倉銅鐸にみる弥生時代の鑄造技術」  
講師：角田徳幸（島根県立古代出雲歴史博物館学芸員）  
日時：平成24年12月1日(土)
- ・第52回「弥生時代の墳丘墓と日本海交流」  
講師：會下和宏（島根大学ミュージアム准教授・副館長）  
日時：平成24年12月15日(土)
- ・第53回「古代の日本海交流－渤海と山陰・出雲－」  
講師：大日方克己（島根大学法文学部教授）  
日時：平成25年1月12日(土)
- ・第54回「古代のクラからみた国郡制の形成」  
講師：大橋泰夫（島根大学法文学部教授・島根大学ミュージアム兼任研究員）  
日時：平成25年2月9日(土)
- ・第55回「『出雲』における古墳の終焉」  
講師：岩本 崇（島根大学法文学部准教授・島根大学ミュージアム兼任研究員）  
日時：平成25年3月23日(土)



第47回市民講座「16世紀の列島社会と石見銀山」(24. 7. 7)



第50回市民講座「隠岐産黒耀石の開発・利用からみた先史時代の山陰地域」(24. 10. 6)

## ②フィールド体験ツアー

**目的** フィールド体験ツアーは、豊かで多様性のある島根県内の自然・歴史・文化資源を「フィールドミュージアム」「まるごとミュージアム」にみため、島根大学所有のバスを活用して現地に訪れ、見学する企画である。県内に埋もれた地域資源を再発見してもらうことを目的としている。

例年、島根大学生涯学習教育研究センターが運営する島根大学公開講座の一環として実施している。

### ■第7回島根まるごとミュージアム体験ツアー「島根半島の信仰遺跡巡礼」

**日時** 平成23年5月21日(土) 12:00～17:00

**講師** 會下和宏（島根大学ミュージアム副館長・准教授）

**内容** 島根半島には、出雲大社や鰐淵寺など、多くの社寺のほかに、『出雲国風土記』にも記述された巨岩や洞窟にまつわる古代の信仰遺跡がみられる。これらの信仰遺跡のうち、鰐淵寺蔵王窟、韓竈神社、猪目洞窟などを巡り、古代人の世界観・宗教観を体感する。

**評価** 参加者は19名。天候にも恵まれ、春の里山なども楽しみながら、予定通り、鰐淵寺蔵王窟→韓竈神社→猪目洞窟遺跡のコースを巡ることができた。

### ■第8回島根まるごとミュージアム体験ツアー「松江・雲南の古代巨石文化探訪」

**日時** 平成24年5月19日(土) 12:00～17:00

**講師** 會下和宏（島根大学ミュージアム副館長・准教授）

**内容** 松江市南部や雲南市には、『出雲国風土記』や『古事記』に記載された巨石にまつわる神社・遺跡がある。こうした神社・遺跡のほか、関連するミュージアムを訪ね、古代出雲人の巨石

や石にまつわる思いを学び、体感してもらう。

**評価** 参加者は34名。予定通り、松江市立玉作資料館→来待ストーンミュージアム→石宮神社→女夫岩遺跡→須我神社のコースを巡ることができた。見学博物館では学芸員からの説明もあり、大変好評だった。

### ③親子で学ぶ子どもミュージアム体験教室（小学生向け企画）

**目的** 子どもミュージアム体験教室は、島根大学がもつ研究機器や機材を活用して、小中学生向けに様々なミュージアム体験をしてもらうミュージアム・スタート活動である。児童・生徒たちに、島根大学でどんな研究をしているのか、大学内部の研究施設がどうなっているのかについて理解してもらうことで、将来的な島根大学進学への動機付けにしてもらうこともねらいとしている。

#### ■夏休み子どもミュージアム体験教室「磯遊びで海の生き物を学ぼう！」

**後援** 松江市教育委員会

**日時** 平成23年7月30日(土) 13:00~14:30

**場所** 桂島(松江市島根町)の海岸

**講師** 田中秀典(NPO 自然と人間環境研究機構・島根大学汽水域研究センター協力研究員)

**対象** 小学生(3~6年生)とその保護者 15組

**内容** 桂島(松江市島根町)の海岸で行った環境学習。①ゴミ拾いを行って、どのような漂着ゴミがあるかを調べる。②磯の生き物を採取して種名や内容について調べる。①②を通じて、身近な島根の海の生態系について学んでもらう。

**評価** 参加者は親子7名(3組)。①では、ペットボトル、釣り糸、外国から流れ着いたビニール袋など、たくさんの漂着ゴミを拾うことができた。釣り糸が鳥の口ばしにからまり、被害を及ぼしていることなど、環境への影響を学習することができた。②では、歓声をあげながら自分たちが採集した生き物に触って感触を確かめたり、水槽のなかで稚魚を食べるカニや紫の液体を排出するウミウシを観察したりするなど、直接体験による能動的学習効果が得られた。

#### ■夏休み子どもミュージアム体験教室「みんなで昆虫採集！」

**後援** 松江市教育委員会

**日時** 平成24年8月4日(土) 10:00~12:00

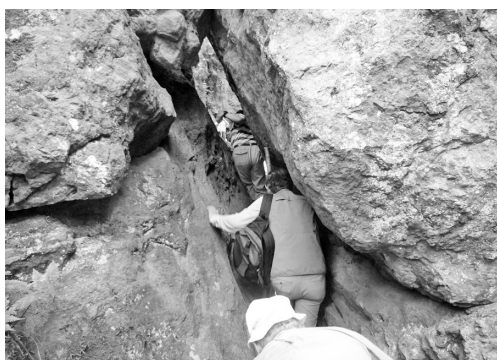
**場所** 島根大学松江キャンパス

**講師** 北村憲二(島根大学名誉教授)

**対象** 小学生(3~6年生)とその保護者 10組

**内容** 正しい昆虫採集のやり方、採集後の処置の仕方、昆虫標本の作り方を学ぶ。①松江キャンパスで網を使って昆虫採集。②採集した昆虫の標本作り。

**評価** 児童に関心が高い昆虫採集と標本作りという内容だったことから参加申込みが殺到し、定員を超えたため抽選した。参加者は親子20名(10組)。参加親子は、夢中で昆虫採集を行い、熱心に標本作りに取り組むことができた。教室の様子は、民放ニュースで報道された。



第7回島根まるごとミュージアム体験ツアー「島根半島の信仰遺跡巡礼」(23.5.21)



夏休み子どもミュージアム体験教室「みんなで昆虫採集」(24.8.4)

## (6) 刊行物

下記の刊行物を発行・配布した。

- ・『シマダイ・ミュージズ』Vol.4、2013.1

## (7) インターネットを活用した情報発信

### ①「島根大学標本資料類データベース」のシステム構築・データ登録・公開

平成23年度島根大学政策配分経費（重点プロジェクト経費＜教育改革推進経費＞）をもとにシステム構築を行った「島根大学標本資料類データベース」に本学所蔵標本資料類のデータ登録を行った。

本データベースは、総合大学である島根大学が、明治時代以来の教育研究によって収集してきた様々な分野の標本資料類を収載している。従来の資料データベースは、それぞれの学問分野に特化して、個別的にデータ項目を設定してきた。本データベースでは、諸分野の標本資料のデータ項目を統一化し、横断的・総合的な検索・閲覧ができることを特徴としている。こうしたデータベース公開によって、これまでの教育研究で蓄積されてきた膨大なモノに関する学術情報が、これからの様々な教育研究に再利用されることが期待される。なお、本データベース構築の取組みは、文部科学省の国立大学法人に対する平成23年度「業務実績評価」のなかで、注目事項としてプラス評価された。

- ・登録数 約4,000件
- ・閲覧件数 101,431（平成24年1月12日～平成25年2月28日）
- ・URL <http://museum-database.shimane-u.ac.jp/specimen/>

### ②「島根県遺跡データベース」のデータ登録

「島根県遺跡データベース」(平成15年度地域貢献事業によって島根大学地域貢献協議会が制作)に島根県内の遺跡データ（遺跡・遺構・遺物・調査・文献データ）を登録した。データは、自治体・個人などが発行・発表した平成22～24年度刊行発掘調査報告書・資料紹介などに掲載してある情報を整理して収載した。

なお、本データベースは、約71万件のアクセスを記録しており、きわめて使用頻度が高い。

- ・URL <http://iseki.shimane-u.ac.jp/>

## 5 本学構内の埋蔵文化財の取扱い

### (1) 地域医療支援センター新営に伴う島根大学出雲キャンパス試掘調査

**調査機関** 島根大学ミュージアム

**調査場所** 島根県出雲市塩冶町89-1 附属病院西側（図2）

**調査目的** 地域医療支援センター建設予定地（42m×18m）における埋蔵文化財の有無、遺構・遺物包含層の量などを確認し、その後の対応を決定する材料にするため。

**調査面積** 185m<sup>2</sup>（18.5m×10m）

**調査期間** 平成24年5月16日～24日

**調査経過**

平成24年5月16日～18日 現代盛土の重機掘削

平成24年5月21日～22日 第1層・第2層掘り下げ

平成24年5月22日 断面写真、図面作成

平成24年5月24日 現地検討会（埋蔵文化財専門委員会）開催。重機による第2層坪掘り。

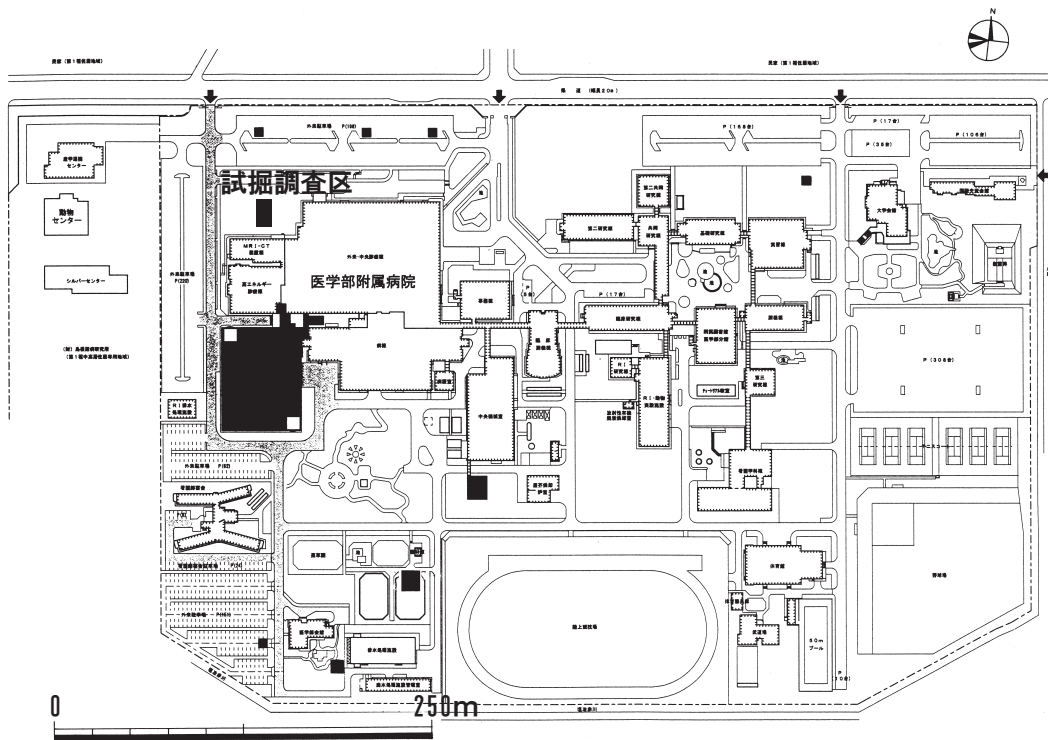


図2 島根大学出雲キャンパス構内遺跡試掘調査 位置図 (1/5,000)

基本層序 (図3)

層位	層相	標高 (m)	遺物	堆積時期
現代盛土		+6.7~+10.1		昭和50年頃
第1層 (大学造成前水田耕作土・盛土)	オリーブ黒色粘土	+6.2~+6.7	陶磁器、瓦	近世?~近代
第2層	オリーブ黒色細砂とシルトの互層	~+6.2	なし	不明

特記事項

調査の結果、近現代水田耕作土（第1層）の下位から神戸川の堆積による細砂層・シルト層の互層（第2層）が検出された。基本層序は、これまでの周辺調査区と同様である。第2層からは、遺物は出土しておらず、これまでの調査成果とあわせると、本調査区は神戸川の氾濫原に位置しており、埋蔵文化財が存在する可能性はきわめて低いものと判断した。以上の成果から、今回の開発工事に伴う埋蔵文化財の取扱いについては、「慎重工事」によって対応するものと決定した。

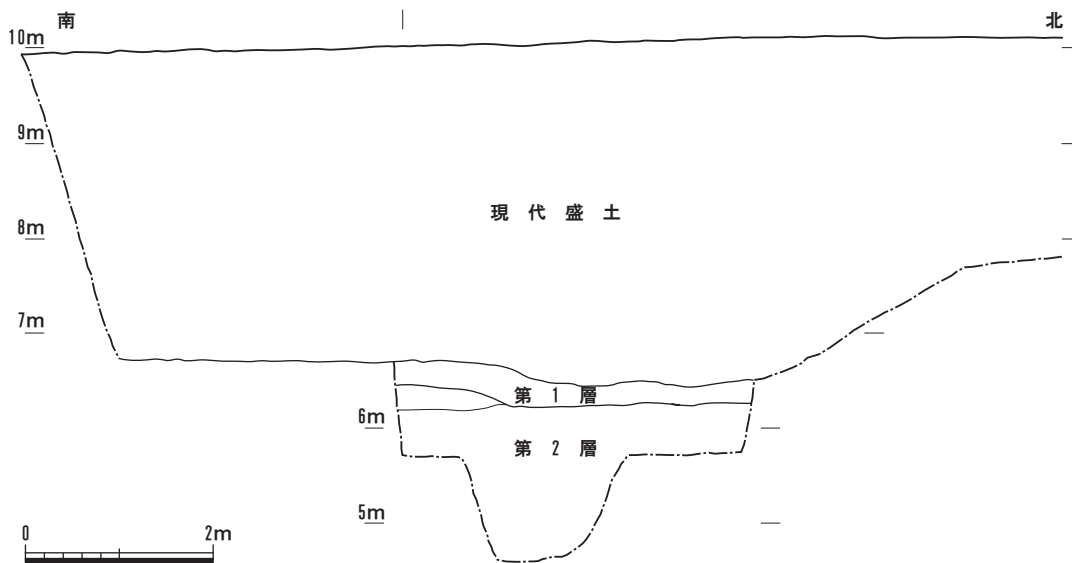


図3 島根大学出雲キャンパス構内遺跡試掘調査区 西壁断面図 (1/80)

(2) 附属図書館本館の耐震補強外壁設置に伴う島根大学構内遺跡第19次調査

**調査機関** 島根大学ミュージアム

**調査位置** 島根県松江市西川津町1060 (旧字名：橋縄手、図4)

**調査原因** 島根大学附属図書館本館の耐震補強外壁設置工事に伴って包含層が掘削されるため。

**調査面積** 87m<sup>2</sup>

**調査期間** 平成24年7月23日～8月7日

**調査経過**

**南トレンチ**

平成24年7月23日～27日 重機掘削

平成24年7月25日～27日 第1層掘り下げ

平成24年7月27日 第3a層 (褐色粗砂層など) 掘り下げ

平成24年7月28日～30日 第3b層 (オリーブ黒色砂質シルト層) 掘り下げ

平成24年7月31日 掃除、写真撮影 (全景・南壁断面)

平成24年8月1日 西端部の坪掘り (標高-0.1mまで)

平成24年8月1日～8月3日 南壁断面図作成

平成24年8月2日 現地検討会 (埋蔵文化財専門委員会) 開催

**北トレンチ**

平成24年7月23日～27日 重機掘削

平成24年7月25日～27日 第1層掘り下げ

平成24年7月27日 第2層 (黒色粘土層) 掘り下げ

平成24年7月28日～8月1日 第3層 (オリーブ黒色シルト層など) 掘り下げ

平成24年8月2日 掃除、写真撮影 (全景・北壁断面)

平成24年8月2日 現地検討会 (埋蔵文化財専門委員会) 開催

平成24年8月3日～4日 北壁断面図作成

平成24年8月7日 珪藻分析用土壌サンプル採取。下位層のピートサンプリング、坪掘り (標高-0.9mまで)



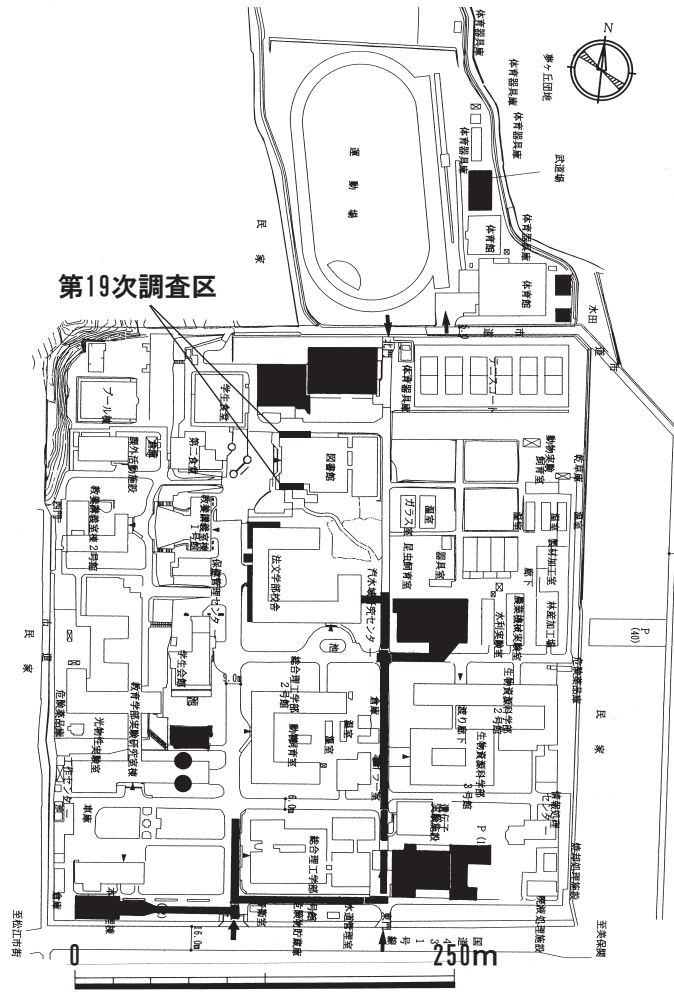


図4 島根大学構内遺跡第19次調査位置図 (1/5,000)

⑦基本層序 (図5)

南トレンチ

層名	層相	標高	時代・遺物
第1層	灰色粘土 (水田耕作土・盛土)	+1.3~+2.0m	近代/陶磁器・須恵器
第3a層	褐色粗砂に暗茶褐色泥土・黒色泥土が挟在	+0.8~+1.3m	木炭
第3b層	オリーブ黒色砂質シルト	~+1.0m	縄文海進期 (縄文中期前葉?まで) / 自然材

北トレンチ

層名	層相	標高	時代・遺物
第1層	灰色粘土 (水田耕作土・盛土)	+1.2~+1.9m	近代/陶磁器・須恵器
第2層	黒色粘土	+1.1~+1.4m	木炭、焦痕のある材
第3層	オリーブ黒色シルト、オリーブ黒色粗砂、黒褐色泥土、黒色泥土、オリーブ黒色泥土など	-0.8~+1.3m	縄文海進期 (縄文中期前葉?まで) / 自然材、焦痕のある材、黒曜石、石錘
第4層	白色粘土	~-0.8m	



図5 島根大学構内遺跡第19次調査区（北トレンチ） 北壁断面図（1/80）

## ⑧特記事項

調査の結果、縄文海進期に堆積したとみられる水成層（第3層）が検出され、石器、焦痕のある材など人工遺物も出土した。

水成層（第3層）の採取試料（試料採取位置は図5北壁断面図の①～⑥）を珪藻分析した結果、下位の試料①では海水生種と海～汽水生種がそれぞれ37%、汽水生種が19%、淡水生種が9%、上位の試料②～⑥では海水生種が90%検出された。すなわち、第3層は古宍道湾奥部の入り江で堆積し、下位では河川の影響を受けていたが、上位では河川の影響を受けない水環境にあったことが想定できる。

第3層は、標高+1.3mまで堆積しているため、縄文海進時の最高頂レベルがそれ以上であったことを示唆する。これは、北隣の第11次調査区でのデータ（第4層が標高+1.44mまで堆積）と近似しており、整合的である。今後は、第3層最上部（試料⑥）の年代測定を行うなどして、堆積年代を明らかにしたい。

## （3）工事立会

松江キャンパス内の野外照明設置工事に際し、工事範囲が狭小で、深度も近現代盛土の範囲内に留まることから、地下の埋蔵文化財に影響がないことを想定し、工事立会で対応した。

立会の結果、いずれも近現代盛土の範囲内に留まる工事であったことから、埋蔵文化財への影響がないことを確認した。

## （4）島根大学構内遺跡第15・16・17・18・19次発掘調査の整理・研究

上記調査のほか、平成18年度実施の同遺跡第15次調査、平成19年度実施の同遺跡第16次調査、平成20年度実施の同遺跡第17次調査、平成21年度実施の同遺跡第18次調査、平成24年度実施の同遺跡第19次調査などの出土遺物の実測・トレース、遺構図面トレース、出土材化石のプレパラート標本化といった室内整理作業を進めた。

## 6 島根大学旧奥谷宿舎（サテライトミュージアム）の活用

### （1）島根大学旧奥谷宿舎（サテライトミュージアム）の活用状況

島根大学旧奥谷宿舎（サテライトミュージアム）は、1924（大正13）年11月竣工の旧制松江高等学校外国人教師（独語教師）宿舎で、国登録有形文化財にも登録されている。平成21年10月に修復工事を終え、サテライトミュージアムとしてオープン、平成24年10月で3周年を迎えた。

平成23・24年度も引き続き、1階常設展示室では、「写真が語る島根大学の歴史と旧奥谷宿舎」を開催したほか、1階多目的室を中心にミュージアムによる企画展示などを行った。このほか、大学メセナの一環として、学内外団体との共催による様々なイベント（作品展・ミニ教室など）を開催し、持続的に集客できる施設にするよう努めた。

また平成23年度から、（社）松江観光協会による町歩きツアー「松江おちらとあるき」の定時コース「松江城下の町人文化が息づく」（毎週土曜日開催）の見学スポットに組み込まれ、毎週土曜日に観光客が来館する仕組みが出来た。さらに平成24年8月から、「まちの駅（自由に利用できる休憩場所や地域情報を提供する機能を備え、地域内交流・地域間連携を促進する公共的空間）」に登録され、市内にある同様の登録施設と情報交換を行っている。

活用状況は、下記の通り。島根大学ミュージアム主催催し物の詳細や入館者数は、「Ⅱ-4 標本資料類などに係る普及啓発及び地域貢献」を参照のこと。

### ①展示活動

・平成23年8月27日（土）～9月19日（月祝） 島根大学ミュージアム企画展示「島根師範学校の遺

- 産－島根大学に伝え遺されてきた近代の標本たち－](島根大学ミュージアム主催)
- ・平成23年9月23日(金祝)～9月24日(土) 写真展「The Story -We have each story in our life 高尾希三子と高橋直子の写真展」(高尾希三子氏・高橋直子氏主催)
- ・平成23年9月24日(土)～平成24年6月24日(日) 島根大学ミュージアム常設展示「島根大学 Wunder Kammer 展」(島根大学ミュージアム主催)
- ・平成23年11月11日(金)～12月4日(日) 島根大学ミュージアム企画展示「島根大学初の女性教授『溝上泰子』展」(島根大学ミュージアム主催)
- ・平成23年12月5日(月)～12月28日(水) 島根大学ミュージアム企画展示「旧制松江高校出身『永井隆博士』没後60年企画展～己の如く人を愛せよ～」(島根大学ミュージアム主催)
- ・平成24年5月19日(土)・20日(日) 写真展「こころ」(河上裕貴氏主催)
- ・平成24年6月2日(土)～24日(日) 島根大学ミュージアム・ニュース展示「発見！世界最古の“鮎”化石～松江にいた1000万年前の鮎～」(島根大学ミュージアム・島根大学総合理工学研究科地球資源環境学領域主催)
- ・平成24年7月14日(土)～7月16日(月祝) 写真展「釜ヶ崎劇場2011」(川上譲治氏主催)
- ・平成24年8月3日(金)～9月2日(日) 島根大学ミュージアム企画展示「洋館で見る夏の昆虫コレクション2012」(島根大学ミュージアム主催)
- ・平成24年9月29日(土)～11月18日(日) 絵画展「天上の美 in 島根大学旧奥谷宿舎」(崇尾青見氏主催)
- ・平成25年2月2日(土)～2月10日(日) 写真展「仄暗い世界の果て」(nemo cuore 主催)
- ・平成25年3月2日(土)～3月3日(日) 絵画展「良子の世界～笑顔がいっぱい～」(新田良子氏主催)

## ②ミニ教室など

- ・平成23年4月23日(土) 映画会 (個人主催)
- ・平成23年4月29日(金祝) 工作会 (個人主催)
- ・平成23年6月18日(土) 島根大学のルーツを探るまちあるき (NPO まつえまちづくり塾主催)
- ・平成24年1月8日(日)・22日(日)・29日(日) 絵の教室 (個人主催)
- ・平成24年2月5日(日)・12日(日)・26日(日) 絵の教室 (個人主催)
- ・平成24年3月3日(日) 読書会 (島根大学ラフカディオ・ハーン研究会主催)
- ・平成24年4月29日(日) 映画会 (個人主催)
- ・平成24年5月13日・27日(日) 紙飛行機教室 (個人主催)
- ・平成24年6月3日(日)・17日(日)・24日(日) 紙飛行機教室 (個人主催)
- ・平成24年7月22日(日) 奥谷東区子供安全マップ作り (奥谷東区子供会主催)
- ・平成24年8月5日(日)・19日(日)・26日(日) 紙飛行機教室 (個人主催)
- ・平成24年8月11日(土) 読書会 (島根大学ラフカディオ・ハーン研究会主催)
- ・平成24年9月8日(土) 読書会 (島根大学ラフカディオ・ハーン研究会主催)
- ・平成24年9月26日(水)・10月12日(金)・11月8日(木) なるほど！しまね学「城下町松江の街歩きと放世庵の懐石点心を味わう」特別講座 (山陰中央新報文化センター主催)
- ・平成24年10月20日(土) 読書会 (島根大学ラフカディオ・ハーン研究会主催)
- ・平成24年11月17日(土) 読書会 (島根大学ラフカディオ・ハーン研究会主催)
- ・平成25年1月12日(土) 読書会 (島根大学ラフカディオ・ハーン研究会主催)

## ③授業での活用

- ・平成23年8月27日(土) 博物館学各論Ⅱ (島根大学総合理工学部・生物資源科学部向け)
- ・平成23年9月28日(水) 博物館概論 (島根大学法文学部学生向け)
- ・平成23年11月18日(金) 島大ミュージアム学 (総合科目)
- ・平成24年11月9日(金) 島大ミュージアム学 (総合科目)



絵画展「天上の美 in 島根大学旧奥谷宿舎」  
(24. 9. 29～11. 18)



写真展「仄暗い世界の果て」(25. 2. 2～2. 10)

## (2) 島根大学旧奥谷宿舎見学者アンケートの結果

### 建物に関する感想

- ・落ち着く。涼しい風を感じる。
- ・実際に外国の方が住んでいらした家を見せていただけて良かったです。次回、また寄らせていただきたいです。
- ・思ったよりこじんまりして、温かい感じがした。
- ・きれいに補修され良かったと思います。
- ・閑静な歴史を感じる場所にこのような建物が残っていることは、とても喜ばしく思います。上手く利用しながら、末永く残してほしいと思います。

### ご自身の思い出に関する感想

- ・懐かしく拝見しました。
- ・松江城北小学校に通っていたので、子供の頃から知っていました。当時はお化け屋敷と呼ばれるくらいボロボロだった建物が、これほど綺麗に復活している事に驚きました。地域の宝であり、私の思い出のこの宿舎が末永く愛される場所になる事を願っています。

### 展示に関する感想

- ・永井隆氏について、名前だけは存じ上げておりましたが、どのような方であったのかは初めて知りました（永井隆展）。また、剥製や天球儀などの展示品にも興味をひかれました。
- ・中に入れてよかった。立派ですね。アユの1,000万年前の化石も見られて Lucky でした。（アユ化石展）
- ・人目をひくような看板が大事です。私もそれに引かかって寄りました。“1,000万年前のアユ”もその通り。（アユ化石展）
- ・元昆虫大好き少年にとって夏の日の良い思い出になりました。（昆虫展）
- ・セミを見たかったので来ました。（昆虫展）
- ・色々な物が展示されていておもしろかったし、昆虫だけでなく、写真や絵があって楽しかったです。
- ・知らなかった事も多く、大変勉強になりました。
- ・近所に住んでいますが初めて入りました。良かったです。
- ・展示を見に来ました。子どもが喜びました。こじんまりとしていますが良かったです。
- ・またふらっと寄れるイベント・展示があるといいです。

### その他

- ・広報が足りないので知る機会が少ない。工夫があればと思う。
- ・お茶をいただいて、読むものもあって楽しめました。ありがとうございました。
- ・親切な対応で感謝します。また来たいと思いました。

## 7 マスコミ報道状況

- ・平成23年4月20日 朝日新聞「旧制松江高校の「奥谷宿舎」学生と地域交流の拠点 美術家ら作品展開催」
- ・平成23年6月22日 山陰中央新報「髪のコスプレもとく」(生物資源科学部 松崎貴准教授)
- ・平成23年7月30日 山陰中央新報「島大付属中の動物標本20体 70年の眠りからお目覚め ライチョウなど天然記念物も大学に移し公開」
- ・平成23年8月27日 NHK 松江放送局 企画展示「島根師範学校の遺産～島根大学に伝え遺されてきた近代の標本たち～」紹介
- ・平成23年8月28日 中国新聞 企画展示「島根師範学校の遺産～島根大学に伝え遺されてきた近代の標本たち～」紹介
- ・平成23年11月11日 山陰ケーブルビジョン・マーブル 企画展示「島根大学初の女性教授「溝上泰子」展～日本の底辺に光をあてた人類生活者～」紹介
- ・平成23年12月6日 日本海テレビ 企画展示「旧制松江高校出身『永井隆博士』没後60年企画展～己の如く人を愛せよ～」紹介
- ・平成23年12月7日 朝日新聞 企画展示「旧制松江高校出身『永井隆博士』没後60年企画展～己の如く人を愛せよ～」紹介
- ・平成23年12月8日 中国新聞 企画展示「旧制松江高校出身『永井隆博士』没後60年企画展～己の如く人を愛せよ～」紹介
- ・平成24年1月13日 毎日新聞「島根大：標本資料、ネットで公開 動物・考古学・戦前の写真など、一元化しデータベースに」
- ・平成24年1月31日 朝日新聞「データベースで標本資料を公開」
- ・平成24年3月20日 TSK 山陰中央テレビ番組「ぐるっと松江まちあるき ～バス&電車でワンデートリップ～」
- ・平成24年6月2日 読売新聞（東京版）「学生が40年前発見…それは世界最古アユだった」(島根大学ミュージアム・ニュース展示「発見！世界最古の“アユ”化石～松江にいた1000万年前の若鮎～」紹介)
- ・平成24年6月2日 読売新聞（大阪版）「アユ1000万年前にいた…40年前、化石発見」(島根大学ミュージアム・ニュース展示「発見！世界最古の“アユ”化石～松江にいた1000万年前の若鮎～」紹介)
- ・平成24年6月14日 山陰中央新報「島根ワイド：島根大所蔵の化石、世界最古のアユ」(島根大学ミュージアム・ニュース展示「発見！世界最古の“アユ”化石～松江にいた1000万年前の若鮎～」紹介)
- ・平成24年6月14日 中国新聞「魚の化石は1000万年前のアユ」(島根大学ミュージアム・ニュース展示「発見！世界最古の“アユ”化石～松江にいた1000万年前の若鮎～」紹介)
- ・平成24年6月17日 NHK 松江「世界最古のアユの化石展示」(島根大学ミュージアム・ニュース展示「発見！世界最古の“アユ”化石～松江にいた1000万年前の若鮎～」紹介)
- ・平成24年6月20日 山陰中央新報「石見：浜田の写真家が松江で釜ヶ崎テーマに作品展」(写真展「釜ヶ崎劇場2011」紹介)
- ・平成24年6月25日 月刊つり人「月刊アユ NEWS Vol.1『世界最古のアユ化石見つかる！』」(島根大学ミュージアム・ニュース展示「発見！世界最古の“アユ”化石～松江にいた1000万年前の若鮎～」紹介)
- ・平成24年6月29日 日本海テレビ「魚の化石 最古のアユ」(島根大学ミュージアム・ニュース展示「発見！世界最古の“アユ”化石～松江にいた1000万年前の若鮎～」紹介)
- ・平成24年7月4日 毎日新聞「写真展：釜ヶ崎の“日常と非日常”記録 川上さん、松江で14日から」(写真展「釜ヶ崎劇場2011」紹介)
- ・平成24年7月13日 朝日新聞「釜ヶ崎 社会の縮図」(写真展「釜ヶ崎劇場2011」紹介)
- ・平成24年8月4日 日本海テレビ「夏休み子供ミュージアム体験教室「昆虫標本を自分で作っ

てみよう!」

- ・平成24年8月9日 山陰ケーブルテレビジョン・マーブル「まるまる松江：島根大学ミュージアム企画展『洋館で見る夏の昆虫コレクション2012』」
- ・平成24年8月13日 NHK松江放送局「夏の昆虫の標本 展示会 島根大学ミュージアム企画展『洋館で見る夏の昆虫コレクション2012』」
- ・平成24年8月29日 産経新聞「島根大が収集 昆虫標本600点展示 来月2日まで 島根大が収集」
- ・平成24年9月4日 山陰ケーブルテレビジョン・マーブル「まるまる松江：第49回ミュージアム講座『中近世における石見地域の陶磁器流通』」
- ・平成24年11月2日 山陰ケーブルテレビジョン・マーブル「松江おちらとあるき：島根大学旧奥谷宿舎の紹介」
- ・平成24年11月20日 BS日テレ「知られざる百年遺産 わが町の建築物語：第104回放送 三角屋根の洋館「島根大学旧奥谷宿舎」の物語」
- ・平成24年12月16日 山陰中央新報「古代の日本海交流考える、島大が市民講座 第52回ミュージアム講座『弥生時代の墳丘墓と日本海交流』」

## 8 ミュージアム教員の活動記録

會下和宏 EGE Kazuhiro 准教授

著書・論文など

- ・會下和宏 2011「墓域構成の変化、区画墓の展開」『弥生時代の考古学4 古墳時代への胎動』同成社
- ・會下和宏 2011「弥生時代～古墳時代前期における鏡の『重ね置き副葬』」『日本考古学』32
- ・會下和宏 2013「弥生墳丘墓に付随する様々な遺構」『みずほ』別冊

学会発表など

- ・會下和宏 2011「島根大学や前身校所蔵の標本類について～島根大学ミュージアム所蔵品にみる教材としての標本類～」『日本理科教育学会・第61回大会』
- ・會下和宏 2012「図書館側からみた報告書の現状と課題」『一般社団法人日本考古学協会第78回(2012年度)総会』

社会的活動(島根大学ミュージアム主催のものは省略)

- ・講師「古代、漁業はどのようにして行われたのか、どのようにして食したのか」『島根大学公開講座：日本海・宍道湖がもたらした食と生活の文化』島根大学生涯学習教育研究センター主催(島根大学松江キャンパス) 2011.11
- ・出雲弥生の森博物館運営協議会委員 2011.12、2012.8、2012.11
- ・講師「出雲の四隅突出型墳丘墓」『古代出雲文化フォーラム～神話・青銅器・たたら～』島根大学主催(東京・有楽町朝日ホール) 2013.3

担当授業

■平成23年度

【学芸員資格取得に関する科目(ミュージアム開講)】

- ・「博物館概論」(島根大学法文学部学生向け)
- ・「博物館資料論」(島根大学法文学部学生向け)
- ・「博物館情報論」(島根大学法文学部学生向け)
- ・「博物館経営論」(島根大学法文学部学生向け)
- ・「博物館学各論Ⅰ」(島根大学総合理工学部・生物資源科学部学生向け、分担)
- ・「博物館学各論Ⅱ」(島根大学総合理工学部・生物資源科学部学生向け)
- ・「考古学実習Ⅲ」「博物館学実習」(島根大学法文学部学生向け)
- ・「博物館実習」(島根大学法文学部学生向け)
- ・「博物館実習」(島根大学総合理工学部学生向け)

- ・「博物館実習に係る事前及び事後の指導」(島根大学法文学部学生向け)
- ・「博物館実習に係る事前及び事後の指導」(島根大学総合理工学部学生向け)
- ・「博物館実習に係る事前及び事後の指導」(島根大学生物資源科学部学生向け) に一部協力。

**【島根大学共通教養科目】**

- ・「島大ミュージアム学」(ミュージアム開講、分担、公開授業)
- ・「フィールドで学ぶ『斐伊川百科』」(法文学部開講、分担)
- ・「島根学～島根の医学・医療と文化の歩み～」(医学部開講、分担、公開授業)

**■平成24年度**

**【学芸員資格取得に関する科目（ミュージアム開講）】**

- ・「博物館概論」[博物館概論 A]
- ・「博物館資料論」
- ・「博物館資料保存論」(分担)
- ・「博物館展示論 B」
- ・「博物館教育論 B」
- ・「博物館情報・メディア論 B」
- ・「博物館情報論」(島根大学法文学部学生向け)
- ・「博物館経営論」(島根大学法文学部学生向け)
- ・「博物館学各論Ⅰ」(島根大学総合理工学部・生物資源科学部学生向け)
- ・「博物館学各論Ⅱ」(島根大学総合理工学部・生物資源科学部学生向け)
- ・「考古学実習Ⅲ」[博物館学実習](島根大学法文学部学生向け)
- ・「博物館実習」(島根大学法文学部学生向け)
- ・「博物館実習」(島根大学総合理工学部学生向け)
- ・「博物館実習に係る事前及び事後の指導」(島根大学法文学部学生向け)
- ・「博物館実習に係る事前及び事後の指導」(島根大学総合理工学部学生向け)

**【島根大学共通教養科目】**

- ・「島大ミュージアム学」(ミュージアム開講、分担、公開授業)
- ・「フィールドで学ぶ『斐伊川百科』」(法文学部開講、分担)





---

## 島根大学ミュージアム年報

平成 23・24 年度

発 行 2013年 3 月31日

発行者 島根大学ミュージアム

〒690-8504 松江市西川津町1060

電話 (0852) 32-6496

印 刷 株式会社 報 光 社

---